

# 益城町仮設住宅における聞き取り調査 途中経過報告書【9/27現在】

---

熊本大学復興支援プロジェクト  
(ましきラボ)

# 本聞き取り調査の特徴

- 全仮設住宅を訪問しての聞き取り
- 調査員は、大学生**ボランティア**
- 時間をかけてじっくりとお話を伺う（10分～1時間以上）
- 県内外の大学（県立大，学園大など）と連携した実施
- 仮設住宅の課題・改善要望は整理し，町役場に連絡
- 結果速報をニュースレターで全仮設住宅に配布（現在6回）

# 仮設住宅での聞き取り調査概要

## 目的

---

- (1)現時点で不自由な点, 不安などを幅広く伺う
- (2)今後のお住まいに関する希望を伺う

## 手法

---

熊本大学の学生が2人1組で1軒ずつ訪問

【時期】カギ渡し日から2週間後

※不在世帯は何度も訪問

短くて 10～15分, 長い場合は1～2時間  
じっくりお話を伺う



# 実施概要（9月27日現在）

## 調査実施日数

---

6月：**1**日間      7月：**14**日間      8月：**23**日間  
9月：**13**日間

## 調査員数

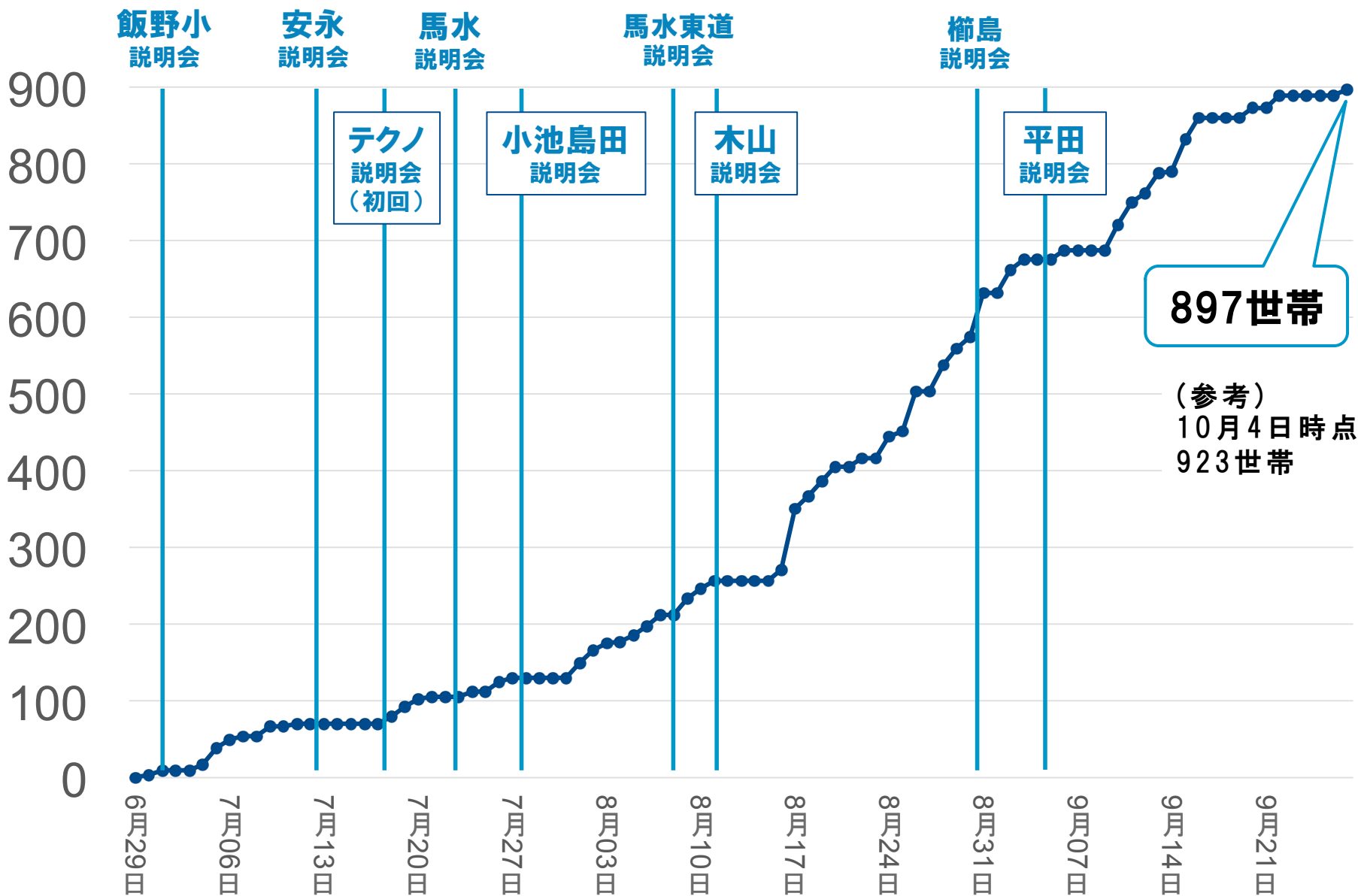
---

（人数）

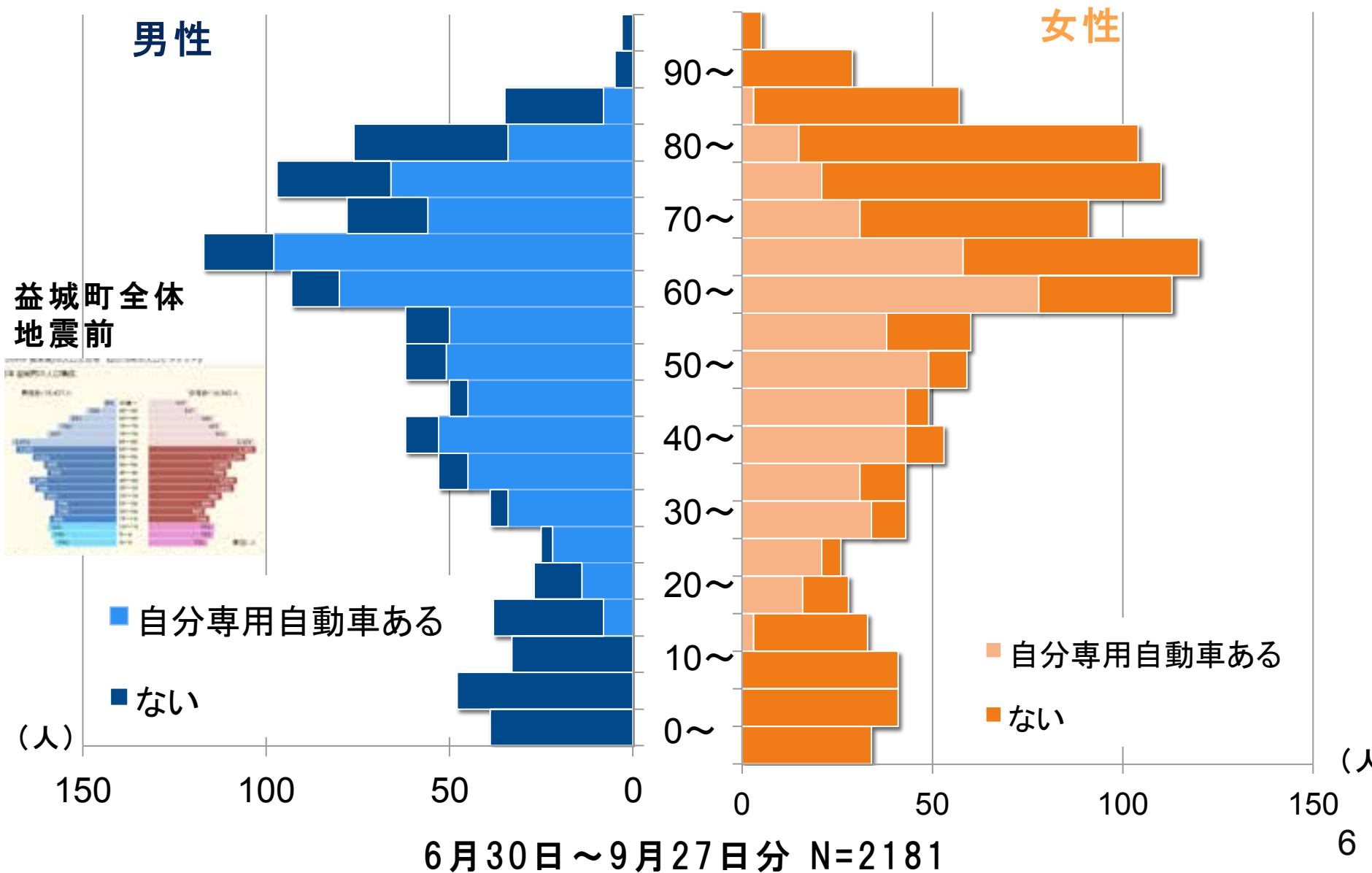
熊本大学学生**66**名、教職員等**9**名、外部支援**57**名

（調査員延べ人数）**507**人・日

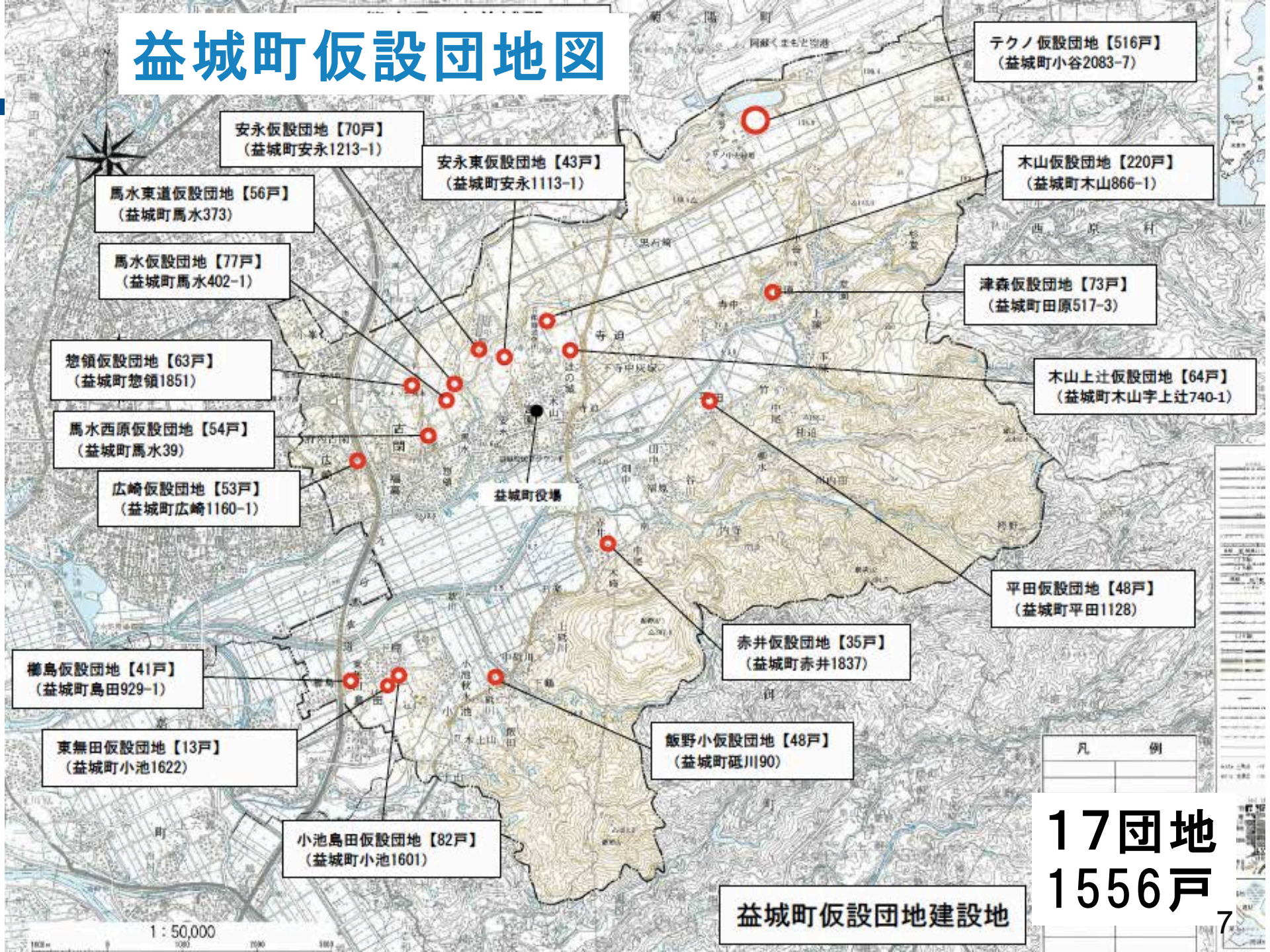
# 調査実施済みの世帯数推移 (9月27日まで)



# 益城町仮設住宅居住者の人口ピラミッド



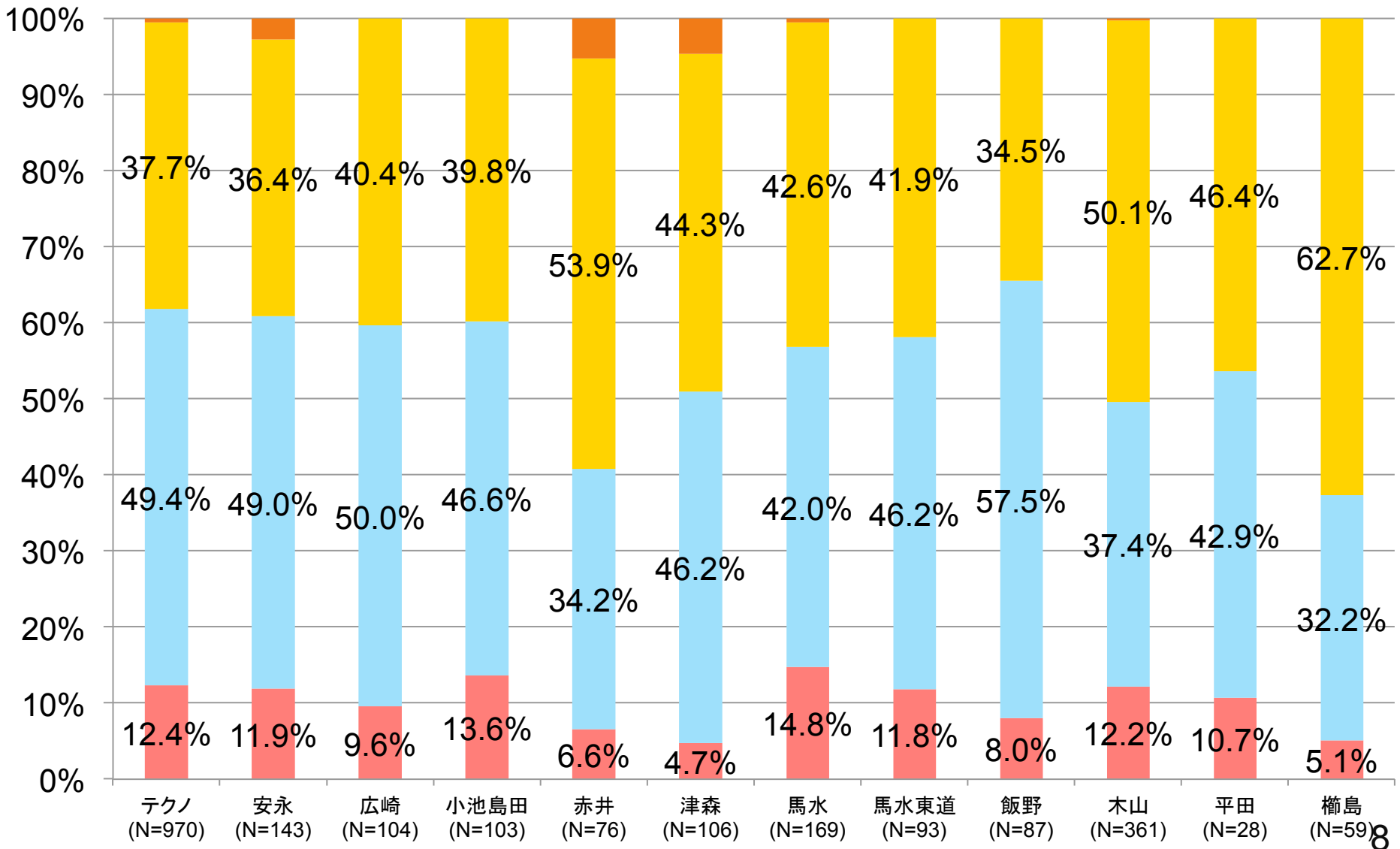
# 益城町仮設団地地図



17団地  
1556戸

# 仮設団地別 入居者の年齢分布

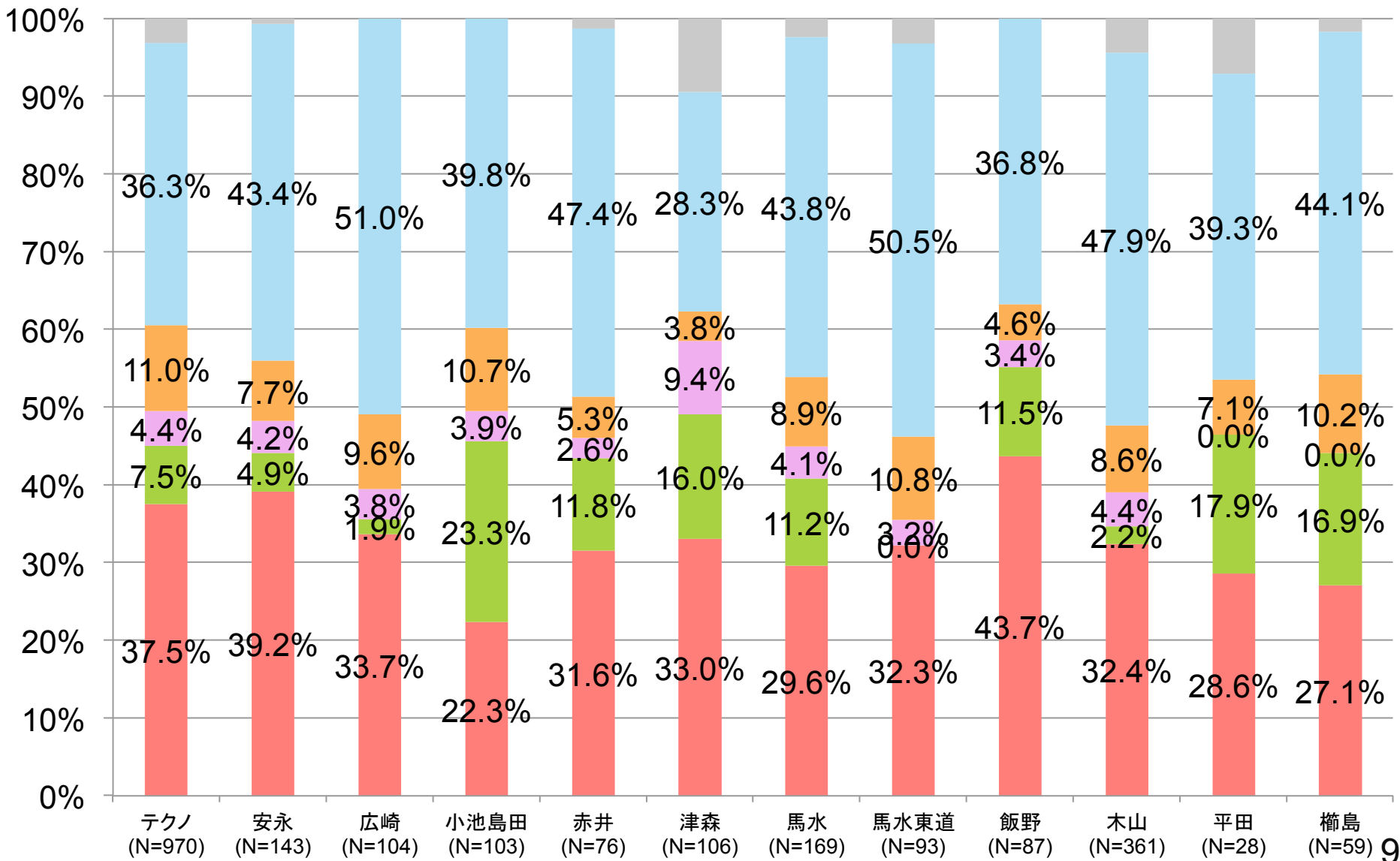
0～15歳 16～64歳 65歳以上 不明





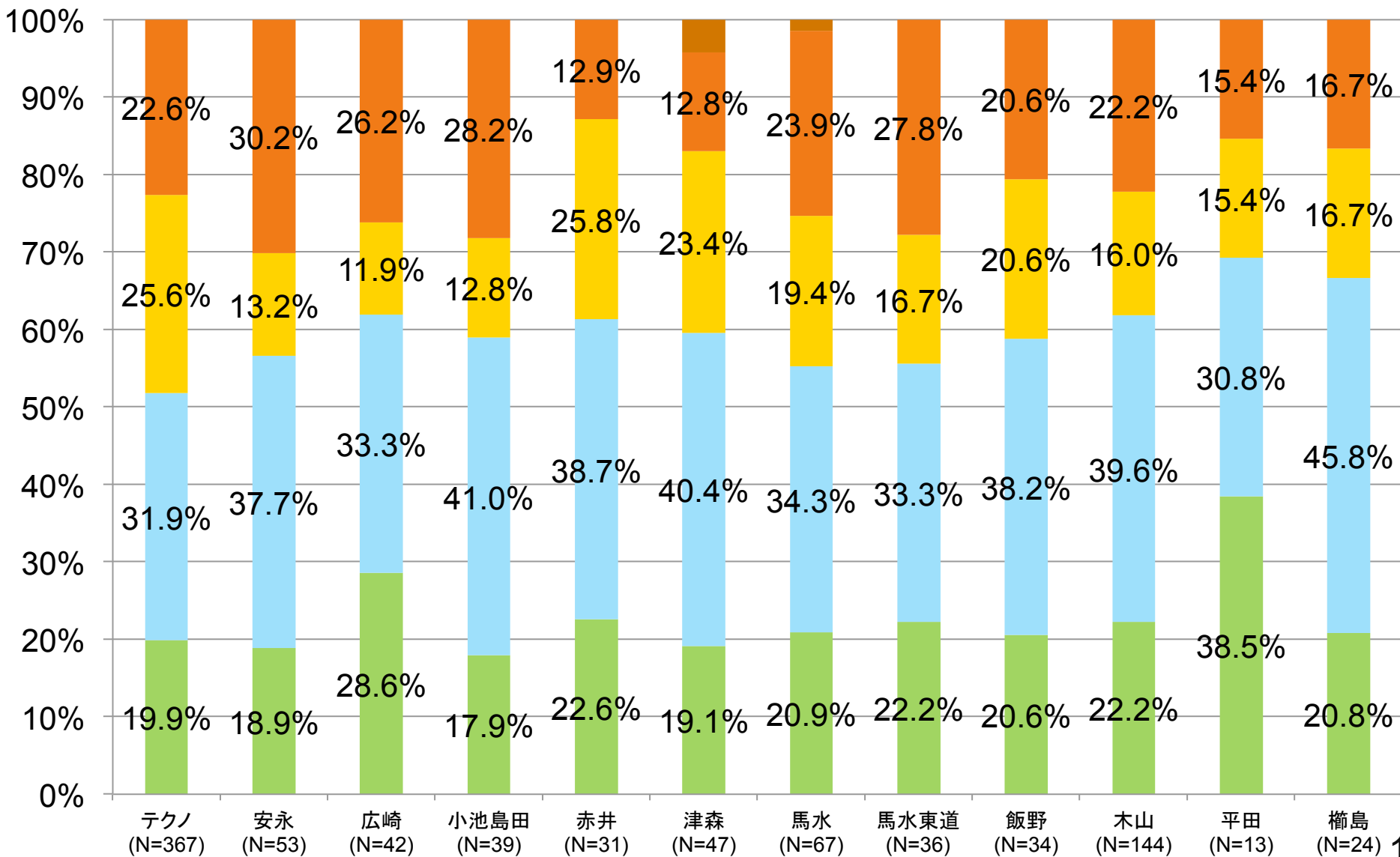
# 仮設団地別 入居者の就業状態

■ 就業 ■ 農業 ■ 主婦・主夫 ■ 学生 ■ 非就業 ■ 不明

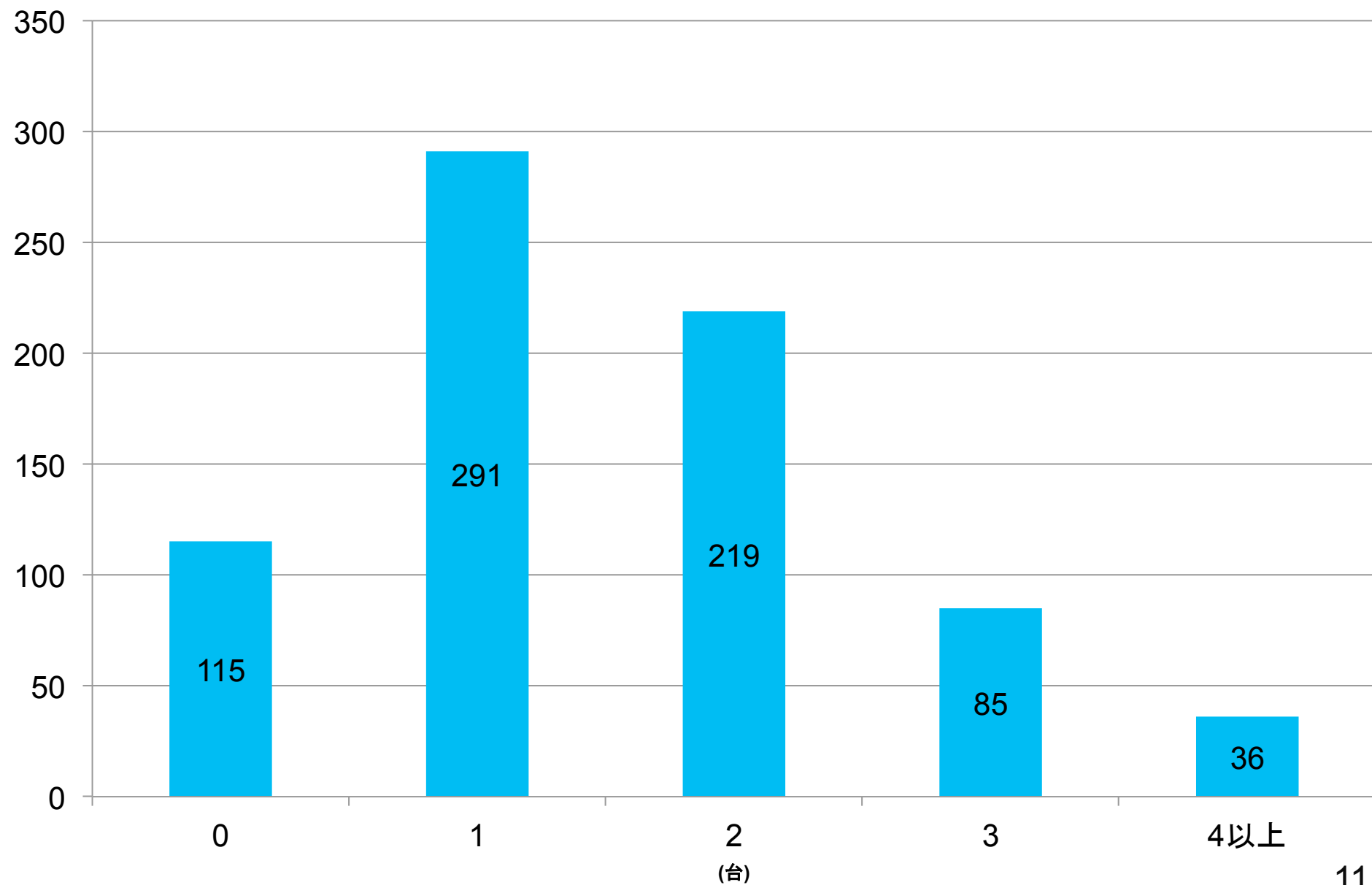


# 仮設団地別 世帯人数

■ 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人以上 ■ 不明

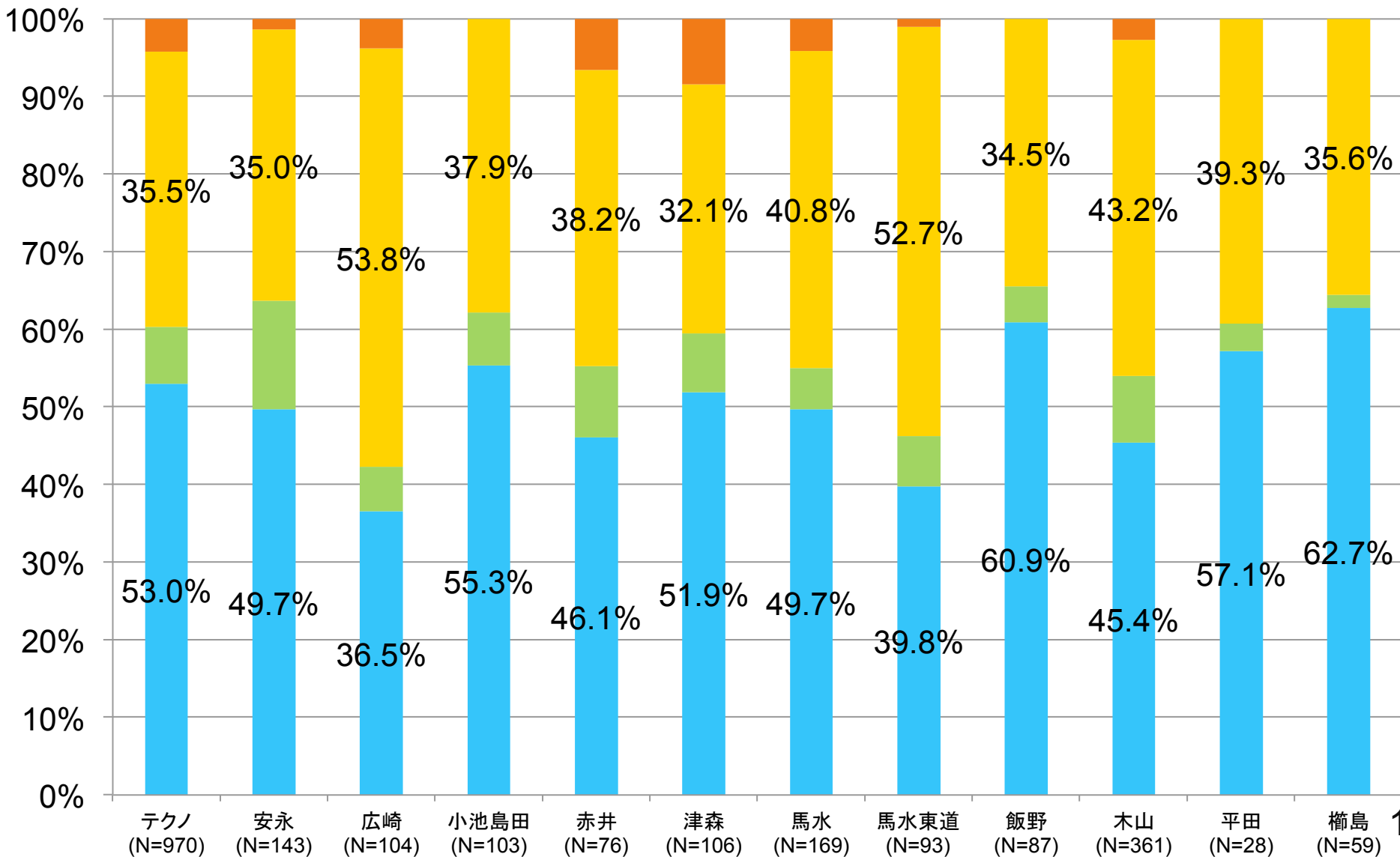


# 仮設1世帯あたりの自動車保有台数



# 仮設団地別の自動車保有状況

■ 自分専用 ■ 家族共用 ■ ない ■ 不明



# 仮設居住者の地震前の住居と被災状況

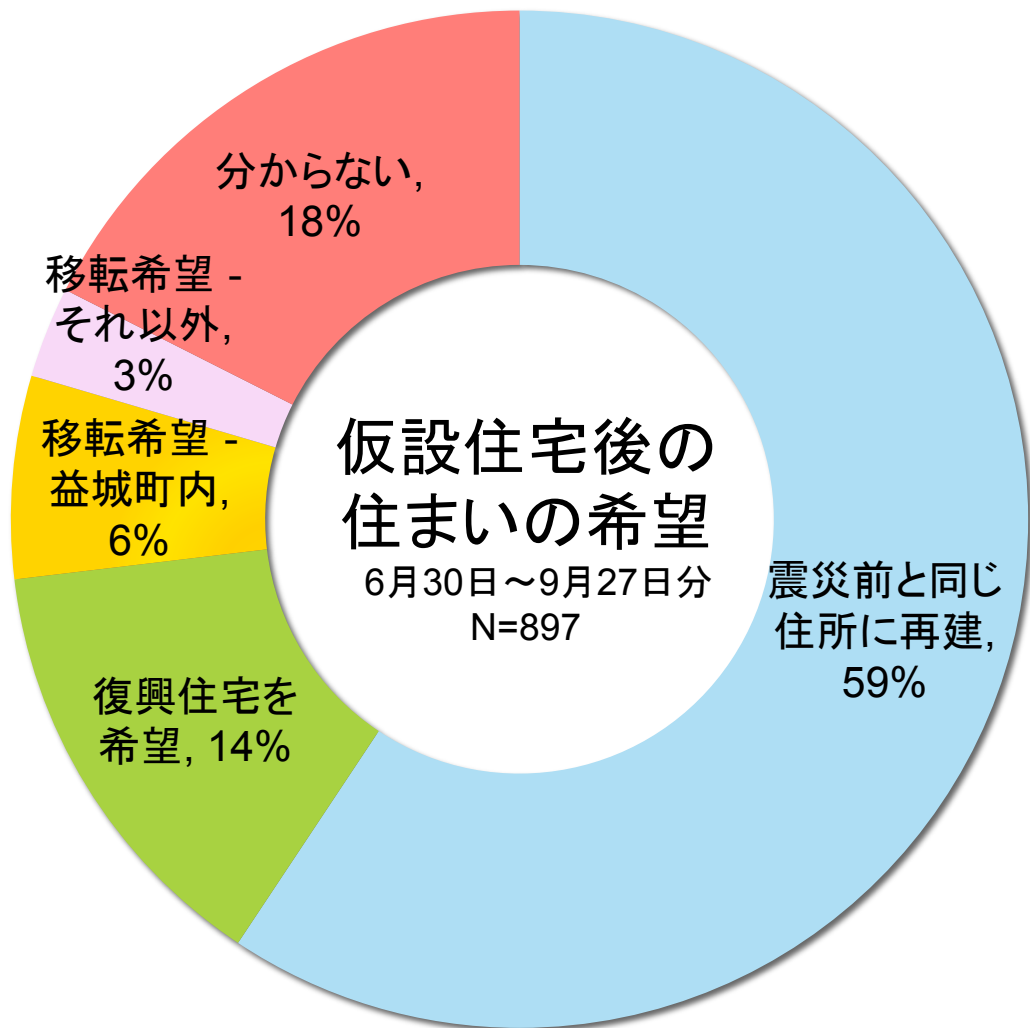
## 所有形態と住居形態

|            | 持家  | 借家  | その他 | 総計  |
|------------|-----|-----|-----|-----|
| 一戸建て       | 752 | 56  | 14  | 822 |
| マンション・アパート | 3   | 63  | 1   | 67  |
| その他        | 2   | 4   | 2   | 8   |
| 総計         | 757 | 123 | 17  | 897 |

## 被災状況

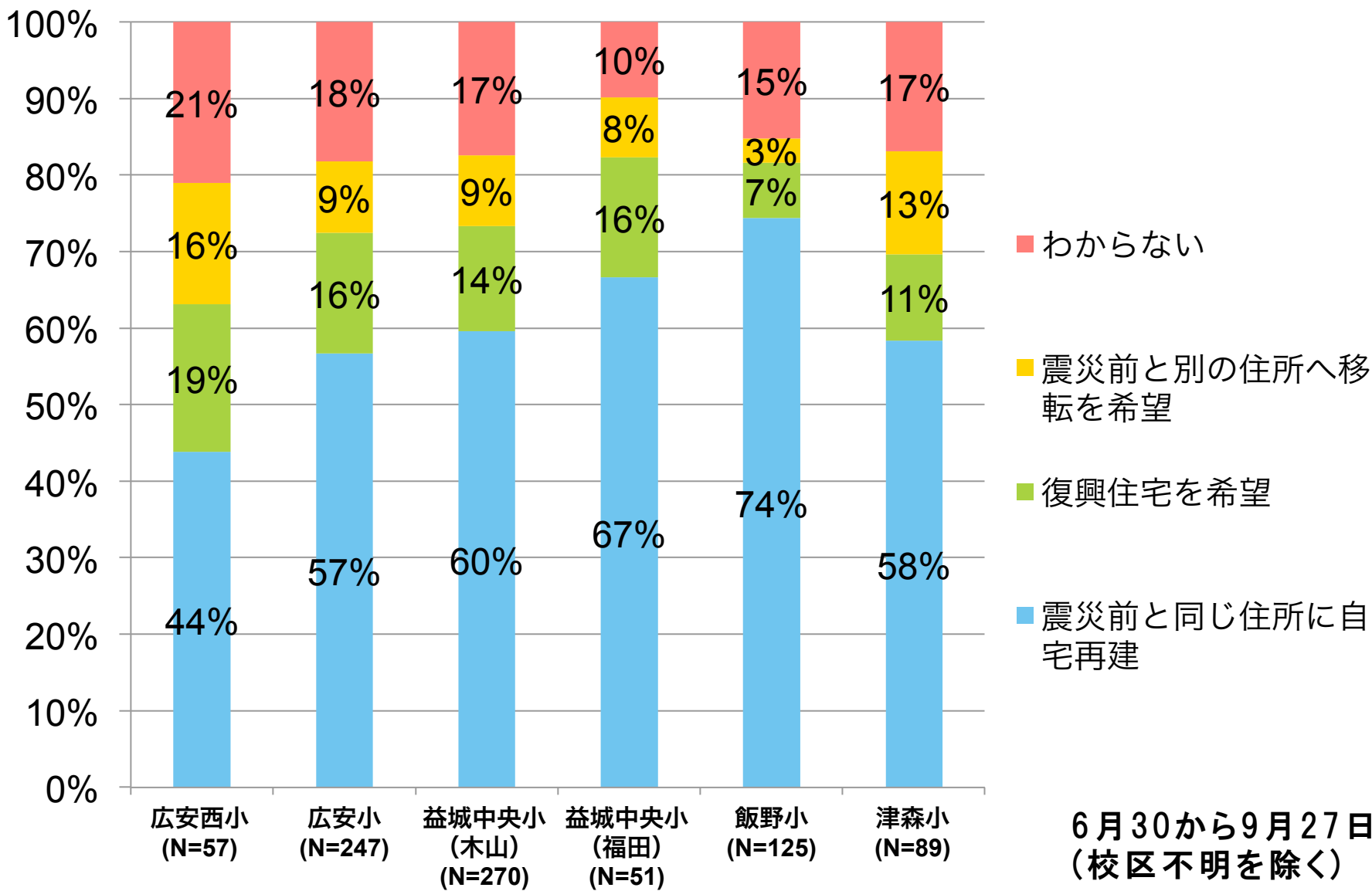
|            | 全壊  | 大規模半壊 | 半壊 | その他 | 総計  |
|------------|-----|-------|----|-----|-----|
| 一戸建て       | 685 | 72    | 56 | 9   | 822 |
| マンション・アパート | 55  | 8     | 4  |     | 67  |
| その他        | 4   | 2     |    | 2   | 8   |
| 総計         | 744 | 82    | 60 | 11  | 897 |

# 仮設後の居住意向

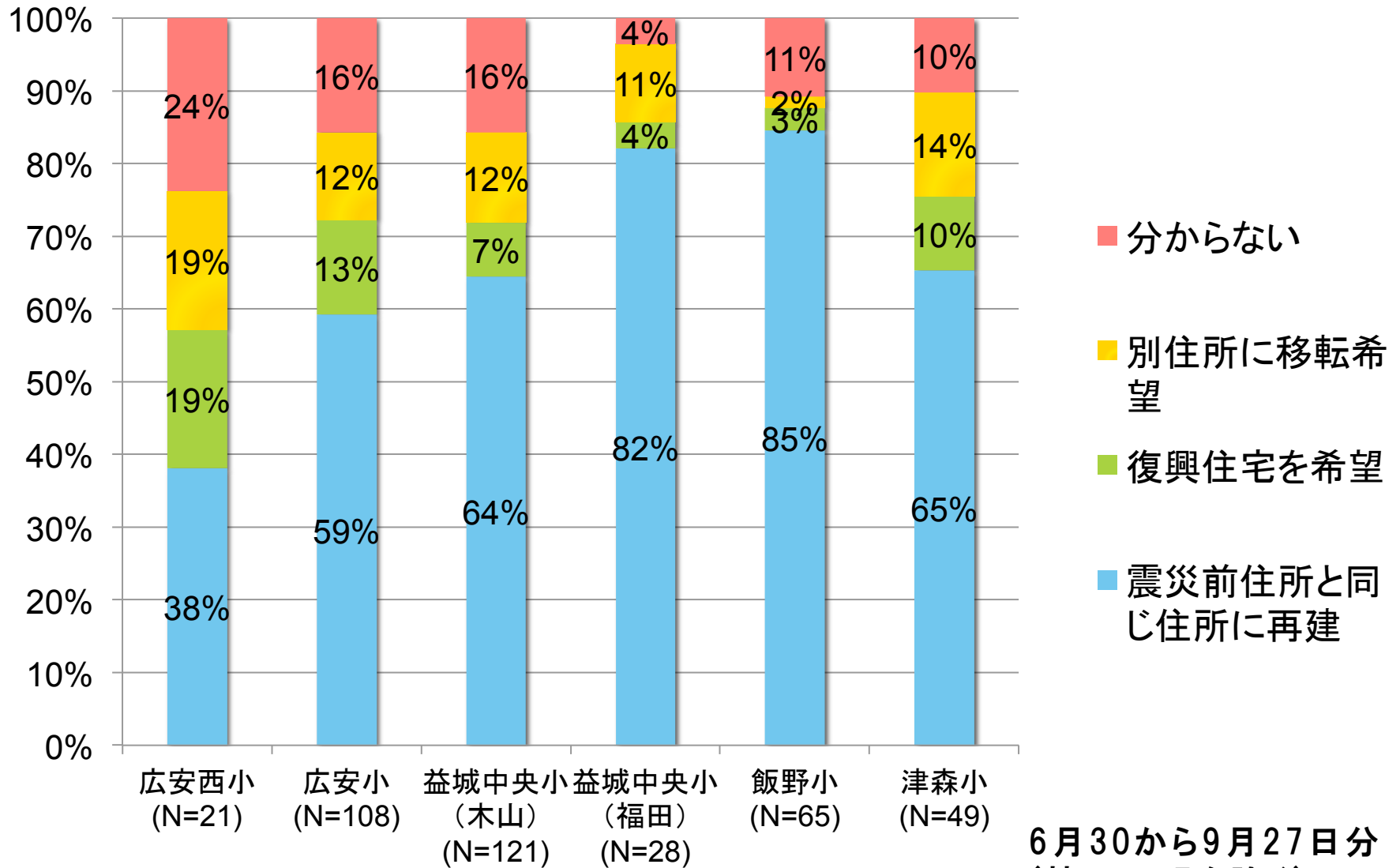


- 自宅再建が理想だが経済面で厳しいので復興住宅ができればそこに住むのも良い
- もともと住んでいた地区に復興住宅を建設してほしい
- 自宅再建の予定だが平屋にする予定
- 自宅再建か復興住宅かで気持ちが揺れている
- 早く復興住宅を建設してほしい
- 家族が一緒になって住める家屋を希望
- 益城町は住み慣れている。愛着もある。
- 再建できる地盤が分からないが、元の場所が良い
- 子供の校区を変えたくない
- お金が無いから先のことは考えられない
- 車を運転できなくなるかもしれないからバス停の近く

# 仮設後の居住意向 小学校区別



# 仮設後居住意向 65歳以下就業者がいる世帯

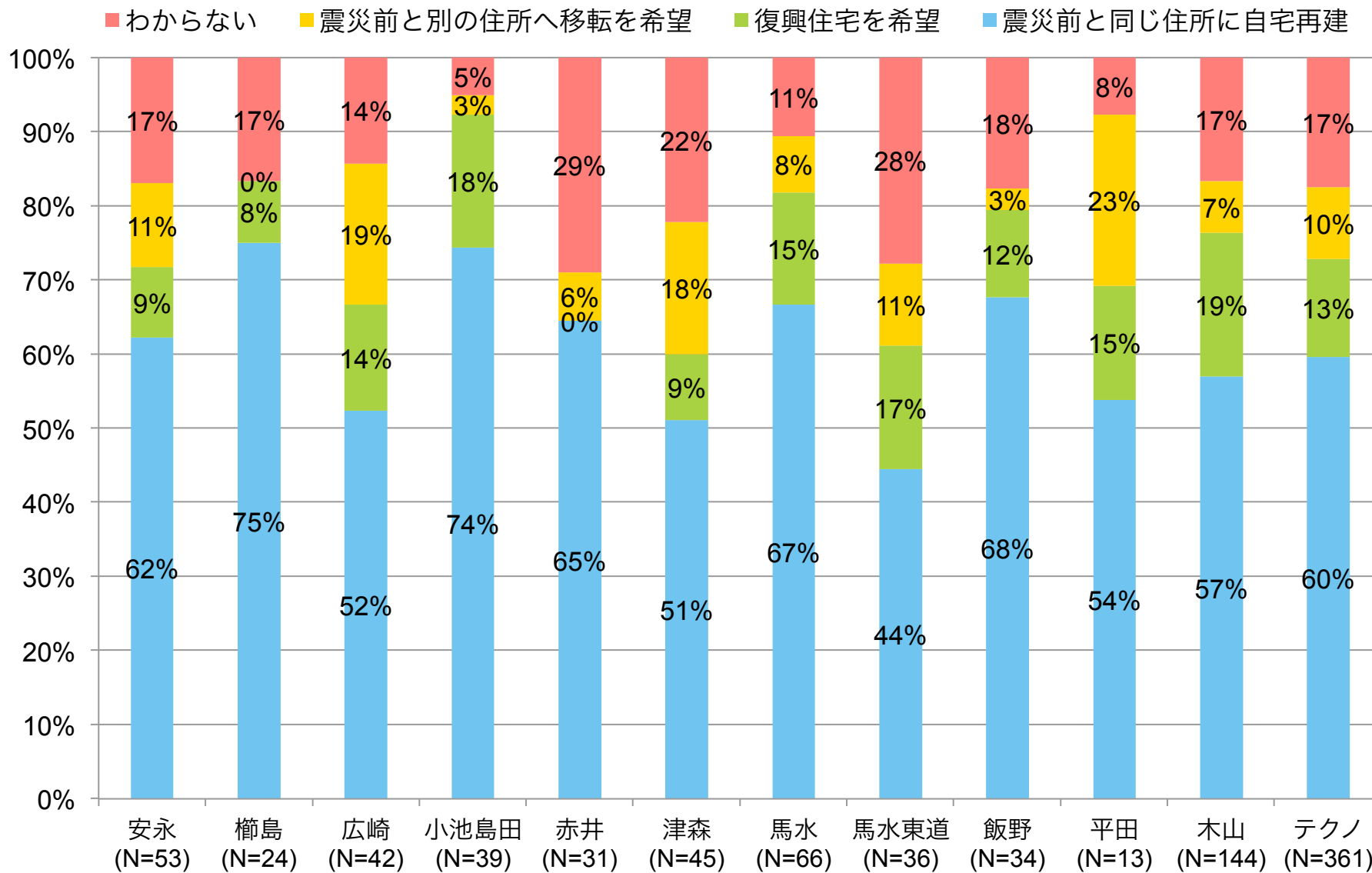


6月30から9月27日分  
(校区不明を除く)

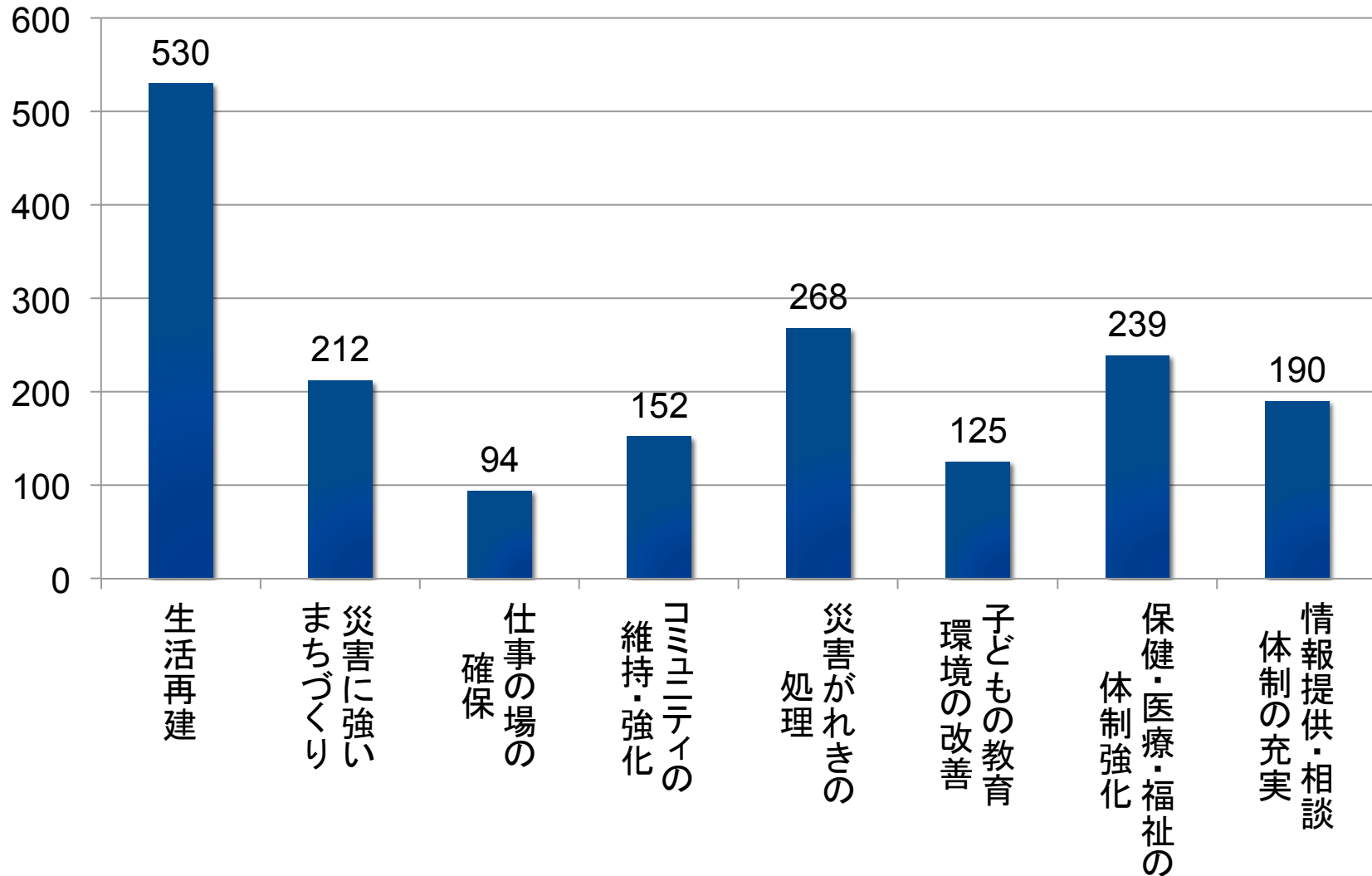


# 仮設後の居住意向 仮設団地別

(6月30から9月27日分)



# 益城町の復旧・復興において重要と思う点



6月30日～9月27日分 N=897  
複数回答可

# 聞き取りの中間まとめ と 今後

- 古くからの住民 (農村部) は自宅再建を希望
- 新住民 (熊本市のベッタウン) は 別位置再建も多い
  
- 経済的に厳しい高齢者世帯は復興住宅 (災害公営住宅)希望
- 持ち家 の広い 一戸建て → 平屋の再建意向多数
- 自宅が再建できる地盤かどうかの情報を住民は求めている
  
- 仮設団地別に特性が異なる  
(年齢分布・就業状況・自動車保有状況・コミュニティ形成)
- 団地の特性に応じた支援が望まれる: 地域支え合いセンター, 乗り合いタクシー導入, タクシーチケット配布 など
  
- 半年後, 1年後, 1年半後に再度調査予定

# 參考資料

# 自由意見から（仮設住宅のコミュニティ）

- ・ 周りは生まれてからの知り合いや親族ばかりで心強い(80代・女性)
- ・ まだ近隣住宅と顔見知りになりたいという心境ではない(70代・女性)
- ・ 避難所の方が仲良くできていて、今は孤立している(60代・女性)
- ・ 集会でみんな顔見知りになって、色々と相談できるような仮設住宅になればいい(60代・男性)
- ・ 仮設団地に後から入ったので集まりに行きづらいから行事予定表などあるといい(50代・女性)
- ・ 集会所で習い事のようなものがあったら良い。
- ・ 皆で集まれる楽しみがあれば。ラジオ体操でもいいのでしたい(70代・女性)
- ・ 仮設住宅でのコミュニティを作って、助け合えるようにしたい、自分はある程度動けるので買い物の支援などできる(60代・男性)
- ・ 近いコミュニティを生かして車の乗り合いを行っている(70代・女性)
- ・ 震災前に住んでいた地域の人たちがどこに行ったのか分からず、気がかり(60代・女性)

# 自由意見（自宅の地盤関係）

- 地盤が悪いため別の土地を探したいが、長年住んでいるためできれば元の自宅があった地区がよい。(80代・女性)
- 本当は同じ場所がいいが、住めそうにない。安全な土地に住めるなら仕方ない(50代・女性)
- 地盤がガタガタで、仮設住宅後の住まいをどうしたらいいか分からない(60代・男性)
- 断層等の心配があり、同じ土地に再建できるか、わからないのが困る(50代・男性)
- 地盤の調査と情報公開をしてほしい(70代・男性)
- 住宅の再建のために地盤の情報などを示したマップを作成してほしい(50代・男性)
- 断層の通りや強い土地を教えてほしい(80代・女性)
- 地盤がしっかりしたところに復興住宅を建設してほしい(70代・女性)

# 自由意見から（復興住宅関係）

- 復興住宅をとにかく早く(70代・男性)
- 復興住宅の申請において家族構成を細かく見てほしい。中高生の子供が複数いるので1軒では狭い(30代・女性)
- 復興住宅を建設するにしても農場から遠ければ困る(80代・女性)
- 復興住宅は校区ごとに建設すればいいと思う(80代・女性)
- 復興住宅は復興後の人口流出入を踏まえた上で計画すべき。周りにコンビニや商業施設、病院などが徐々に建設され、まちづくりの礎となる（30代・男性）
- 希望は元の住所に再建だが、ペット可なら復興住宅も検討する(70代・女性)
- 復興住宅の家賃を安くしてほしい(70代・男性)

# 自由意見から（その他）

- ぜいたくは言えないが、仮設は狭い
- 車を運転できないが家族(知人)に送迎してもらい 病院や買い物へ行っている
- 空港から離着陸する飛行機を撮影するのが趣味 になった（テクノ団地居住者）
- 近所の方が近くの仮設に住んでいてよかった
- 仮設ではネットがないと情報が入りにくい
- ポスト, ATM, 街灯, ミラー, 出張所等が欲しい
- 倒壊した家に埋まっている仏壇を早く拝みたい
- 高齢者だけでなく働く母親世代のことも考えて
- 熊本高森線は四車線化するべき
- 孫の世代に向けて地震に強いまちにして欲しい
- ラジオ体操をしたい
- 明るく楽しく仮設住宅での2年間を過ごしたい
- 若者があふれるまちづくりを！
- 自分たちでできることは自分たちでしたい



# 仮設住宅以降のお住まいについての意識調査

益城町・熊本大学 共同調査

|    |  |    |   |    |   |           |  |
|----|--|----|---|----|---|-----------|--|
| NM |  | ST | : | ET | : | 世帯<br>SEQ |  |
|----|--|----|---|----|---|-----------|--|

この調査は、(1)必要な復興住宅の戸数、希望される場所などを把握する (2)現時点で不自由な点、不安などを幅広くお伺いする、ことを目的として行われます。なお、この調査でご記入頂いた情報は復興に向けた各種検討以外の目的で使用することはありません。不審な点、ご不明な点などがありましたら下記担当者までお問い合わせください。地震発生以降大変な状況が続いており、さらに仮設住宅へのご移動でお疲れのところ、たびたびの調査となりご無礼をお詫び申し上げます。  
益城町役場:復興課 TEL.096-286-3210 熊本大学:円山琢也(准教授) TEL.096-342-2044

|       |       |   |   |         |       |   |   |
|-------|-------|---|---|---------|-------|---|---|
| 記入日時  | 2016年 | 月 | 日 | 入居(予定)日 | 2016年 | 月 | 日 |
| 仮設団地名 |       |   |   | 住宅番号    | -     |   |   |

問1 震災前の住所を教えてください。  
(例)益城町宮園

行政区 益城町 ( )

問2 震災前のお住まいについて、当てはまるものに○を付けてください。

(1) 住宅の所有

1. 持家 2. 借家 3. 親族所有

(2) お住まいの期間

およそ 年

(3) 住宅の形態

1. 一戸建て 2. マンション・アパート 3. 町営住宅 4. その他 ( )

(4) 住宅に居住スペース以外の次の用途はありますか?(複数回答可)

1. なし 2. 商店等の店舗 3. 会社等の事務所 4. 鉄鋼業などの作業場  
5. 農業などの作業場 6. 倉庫 7. その他 ( )

問3 ご自宅の被災状況について、当てはまるものに○を付けてください。

1. 全壊 2. 大規模半壊 3. 半壊 4. その他 ( )

問4 仮設住宅後のお住まいのご希望をお伺いします。  
仮設住宅の入居は2年間となっておりますが、その後の住まいの希望を以下のA~Dから選んでください。

A 震災前と同じ住所に自宅再建

A-(1) 住宅の形態に変更があれば教えてください。

1. 同じ規模での再建 2. 二階建てから平屋への転換 3. 二世帯住宅化 4. その他

B 復興住宅を希望

B-(1) 復興住宅の場所等に希望があれば教えてください。

1. どこでもよい 2. 震災前と同一校区 3. その他

C 震災前と別の住所へ移転を希望

C-(1) 移転先の住所に希望があれば教えてください。

1. どこでもよい 2. 震災前と同一校区内 3. 益城町内(別校区でも可) 4. 益城町外

C-(2) 移転先の住居形態に希望があれば教えてください。

|           |                        |           |                                     |
|-----------|------------------------|-----------|-------------------------------------|
| 住宅の<br>所有 | 1. 持家 2. 借家<br>3. 親族所有 | 住宅の<br>形態 | 1. 一戸建て 2. マンション・アパート<br>5. その他 ( ) |
|-----------|------------------------|-----------|-------------------------------------|

D わからない

裏面に続きます

問6 ご家族についてお尋ねします。(1) 現在の世帯構成と自動車保有台数について、差し支えない範囲で教えてください。

世帯で保有している自動車

台

|            | 年齢 | 性別  | 職業                                                                   | 勤務先住所 (地区/丁目までで概いませぬ) | 通学先                                                                                 | いま運転できる車                              |
|------------|----|-----|----------------------------------------------------------------------|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 1人目<br>記入者 | 歳  | 男・女 | 1. 会社員 2. 農業 3. 自営 4. 主夫・主婦<br>5. 学生 6. 無職 7. その他( )<br>8. アルバイト・パート | 市・区<br>町・村            | 学校名:<br>( )時( )分ごろ自宅発～( )時( )分ごろ自宅着 通学:( )分<br>部活や塾で帰りが遅くなるのが<br>1. ある:( )時ごろ 2. ない | 1. 自分専用<br>2. 家族共用<br>3. ない ] 左下の(2)へ |
| 2人目<br>記入者 | 歳  | 男・女 | 1. 会社員 2. 農業 3. 自営 4. 主夫・主婦<br>5. 学生 6. 無職 7. その他( )<br>8. アルバイト・パート | 市・区<br>町・村            | 学校名:<br>( )時( )分ごろ自宅発～( )時( )分ごろ自宅着 通学:( )分<br>部活や塾で帰りが遅くなるのが<br>1. ある:( )時ごろ 2. ない | 1. 自分専用<br>2. 家族共用<br>3. ない ] 左下の(2)へ |
| 3人目<br>記入者 | 歳  | 男・女 | 1. 会社員 2. 農業 3. 自営 4. 主夫・主婦<br>5. 学生 6. 無職 7. その他( )<br>8. アルバイト・パート | 市・区<br>町・村            | 学校名:<br>( )時( )分ごろ自宅発～( )時( )分ごろ自宅着 通学:( )分<br>部活や塾で帰りが遅くなるのが<br>1. ある:( )時ごろ 2. ない | 1. 自分専用<br>2. 家族共用<br>3. ない ] 左下の(2)へ |
| 4人目<br>記入者 | 歳  | 男・女 | 1. 会社員 2. 農業 3. 自営 4. 主夫・主婦<br>5. 学生 6. 無職 7. その他( )<br>8. アルバイト・パート | 市・区<br>町・村            | 学校名:<br>( )時( )分ごろ自宅発～( )時( )分ごろ自宅着 通学:( )分<br>部活や塾で帰りが遅くなるのが<br>1. ある:( )時ごろ 2. ない | 1. 自分専用<br>2. 家族共用<br>3. ない ] 左下の(2)へ |
| 5人目<br>記入者 | 歳  | 男・女 | 1. 会社員 2. 農業 3. 自営 4. 主夫・主婦<br>5. 学生 6. 無職 7. その他( )<br>8. アルバイト・パート | 市・区<br>町・村            | 学校名:<br>( )時( )分ごろ自宅発～( )時( )分ごろ自宅着 通学:( )分<br>部活や塾で帰りが遅くなるのが<br>1. ある:( )時ごろ 2. ない | 1. 自分専用<br>2. 家族共用<br>3. ない ] 左下の(2)へ |

(2) 20歳以上の方 (1)の「運転できる車」で1. 自分専用 以外 を回答された方のみ、普段の生活で最もよく行くところを教えてください。

|     | かかりつけの病院                                                                   | 買い物などの日常生活の移動                                                              |
|-----|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| —人目 | 病院名:<br>頻度: 1. 毎日 2. 週に3, 4日 3. 週1日 4. 月1回 5. ほとんど行かない<br>交通手段: (現状: 希望: ) | 店舗名:<br>頻度: 1. 毎日 2. 週に3, 4日 3. 週1日 4. 月1回 5. ほとんど行かない<br>交通手段: (現状: 希望: ) |
| —人目 | 病院名:<br>頻度: 1. 毎日 2. 週に3, 4日 3. 週1日 4. 月1回 5. ほとんど行かない<br>交通手段: (現状: 希望: ) | 店舗名:<br>頻度: 1. 毎日 2. 週に3, 4日 3. 週1日 4. 月1回 5. ほとんど行かない<br>交通手段: (現状: 希望: ) |

(3) 震災前と比べて世帯人数は変わりましたか?  
(例: 転居による減少、別世帯家族の同居による増加など)

はい: 震災前は ( ) 人 ・ いいえ

理由

問6 益城町の将来について意見をお聞かせください。

(1) 益城町の復旧・復興において、重要と思う点をお聞かせ下さい。(複数回答可)

- 生活再建
- 災害に強いまちづくり
- 仕事の場の確保
- コミュニティの維持・強化
- 災害がれきの処理
- 子供の教育環境の改善
- 保健・医療・福祉の体制強化
- 情報提供・相談体制の充実
- その他 (次の質問でお答えください)

(2) 任意回答 益城町の復興計画を作るにあたって意見や要望等がありましたら教えてください。

問7 行政、大学などへの意見・要望も含めて、現在のお気持ち・心境をお寄せください。

ご協力ありがとうございました。概ね半年後に再度ご意見などをお伺いする予定です。

# 実施状況

## 9月27日時点

|      | 入居説明会 | 初回訪問日 | 総戸数 | 対象世帯*<br>(9/27時点) | 調査済<br>(9/27まで) | 実施率** |
|------|-------|-------|-----|-------------------|-----------------|-------|
| 赤井   | 6月14日 | 6月30日 | 35  | 33                | 32              | 97.0% |
| 広崎   | 6月14日 | 7月5日  | 53  | 51                | 42              | 82.4% |
| 津森   | 6月20日 | 7月6日  | 73  | 60                | 47              | 78.3% |
| 飯野   | 7月1日  | 7月19日 | 48  | 45                | 34              | 75.6% |
| 安永   | 7月12日 | 7月20日 | 70  | 63                | 53              | 84.1% |
| 馬水   | 7月22日 | 8月4日  | 77  | 76                | 66              | 86.8% |
| 小池島田 | 7月27日 | 8月9日  | 82  | 66                | 38              | 57.6% |
| 馬水東道 | 8月6日  | 8月24日 | 56  | 43                | 37              | 86.0% |
| 木山   | 8月9日  | 8月31日 | 220 | 191               | 149             | 78.0% |

\*\*対象世帯: 総戸数から長期不在および調査拒否を除く

\*\*実施率: 調査済世帯数 / 対象世帯数

# 実施状況

9月27日時点

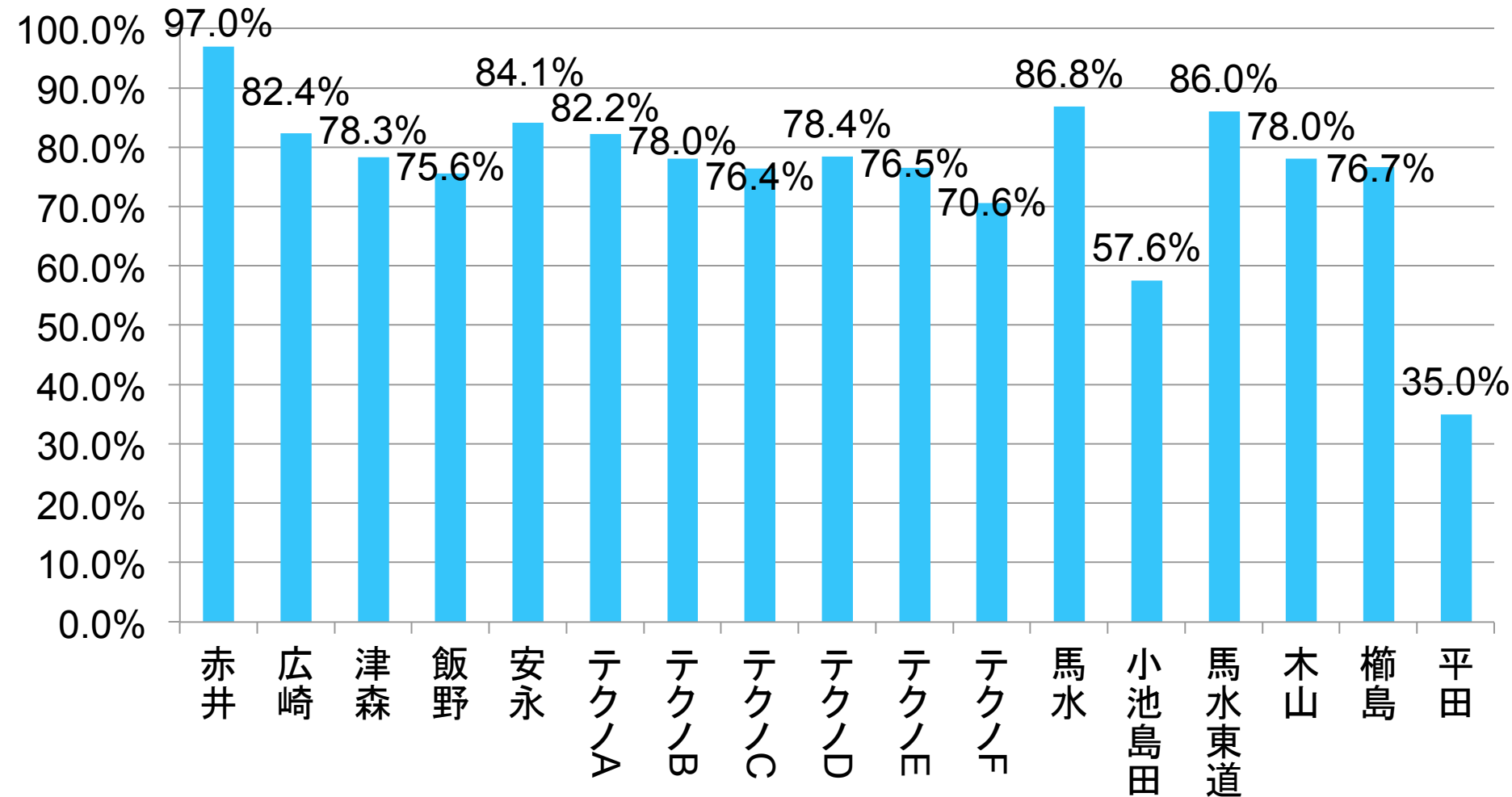
|      | 入居説明会         | 初回訪問日 | 総戸数  | 対象世帯*<br>(9/27時点) | 調査済<br>(9/27まで) | 実施率** |
|------|---------------|-------|------|-------------------|-----------------|-------|
| テクノA | 7月17日<br>(初回) | 8月1日  | 81   | 73                | 60              | 82.2% |
| テクノB | 7月17日<br>(初回) | 8月2日  | 93   | 82                | 64              | 78.0% |
| テクノC | 7月17日<br>(初回) | 8月2日  | 99   | 89                | 68              | 76.4% |
| テクノD | 7月17日<br>(初回) | 8月17日 | 96   | 88                | 69              | 78.4% |
| テクノE | 7月17日<br>(初回) | 8月17日 | 95   | 85                | 65              | 76.5% |
| テクノF | 7月17日<br>(初回) | 8月17日 | 52   | 51                | 36              | 70.6% |
| 櫛島   | 8月29日         | 9月13日 | 41   | 30                | 23              | 76.7% |
| 平田   | 9月3日          | 9月16日 | 48   | 40                | 14              | 35.0% |
| 合計   | -             | -     | 1319 | 1166              | 897             | 77.0% |

今後、東無田，惣領，馬水西原，  
安永東，木山上辻を予定

\*\*対象世帯：総戸数から長期不在および調査拒否を除く

※実施率：調査済世帯数 / 対象世帯数

# 調査実施状況（9月27日時点）

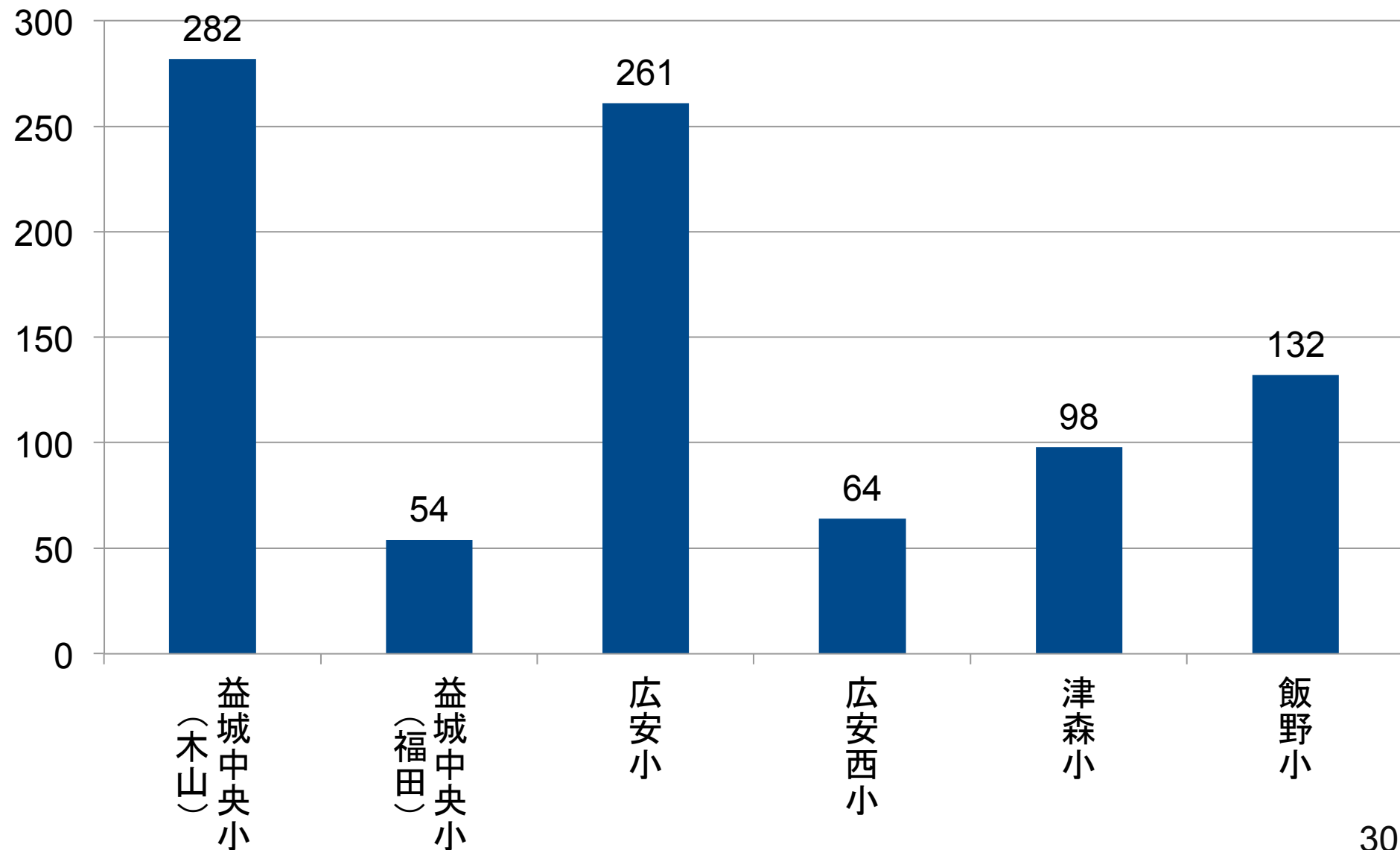


全体 67.9% (調査済世帯数 / 全仮設戸数(予定も含む))

全世帯平均 76.4% (調査済世帯数 / 対象世帯数(9/27現在))

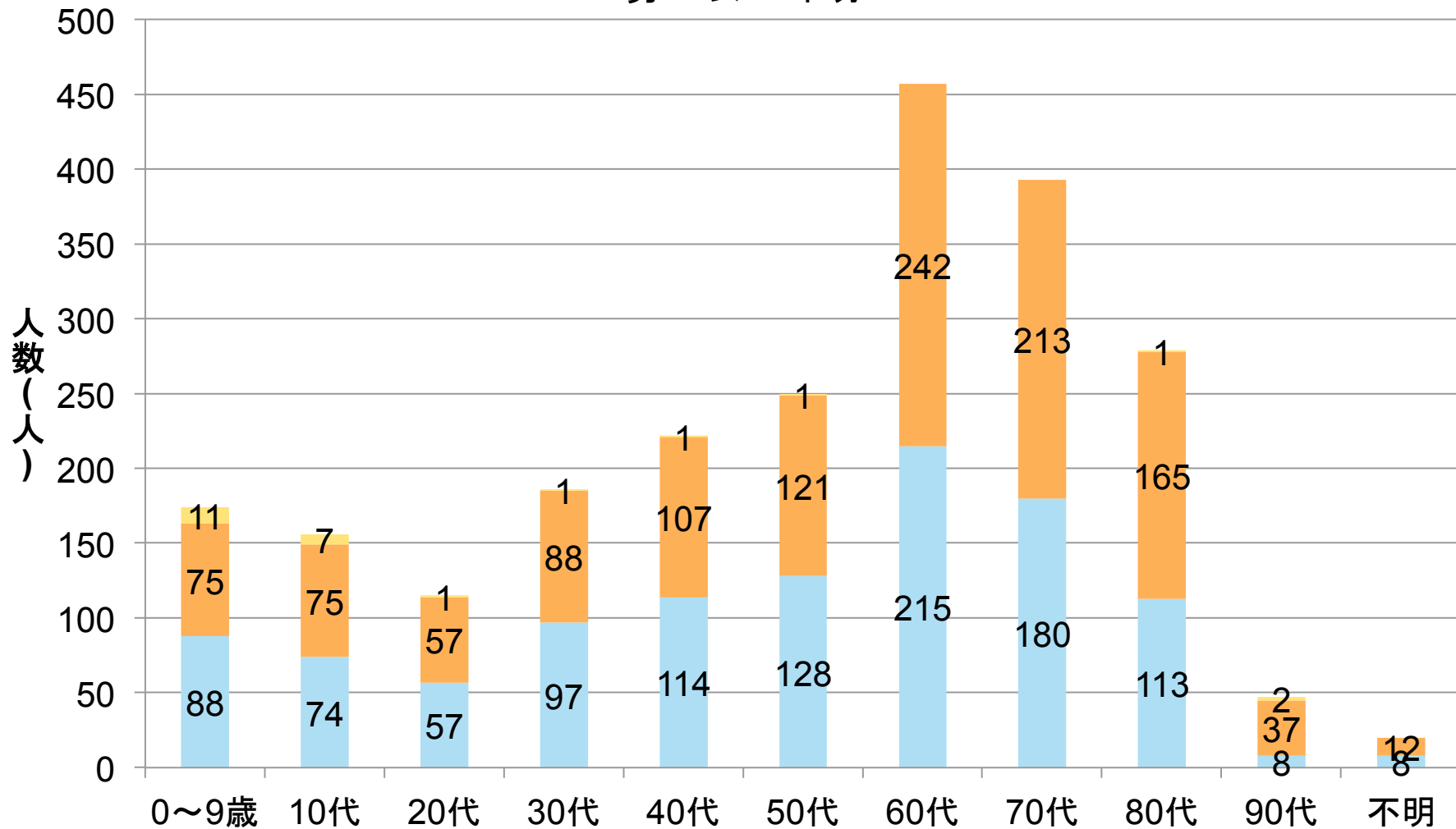
# 小学校区別の仮設団地入居世帯数（9月27日時点）

世帯

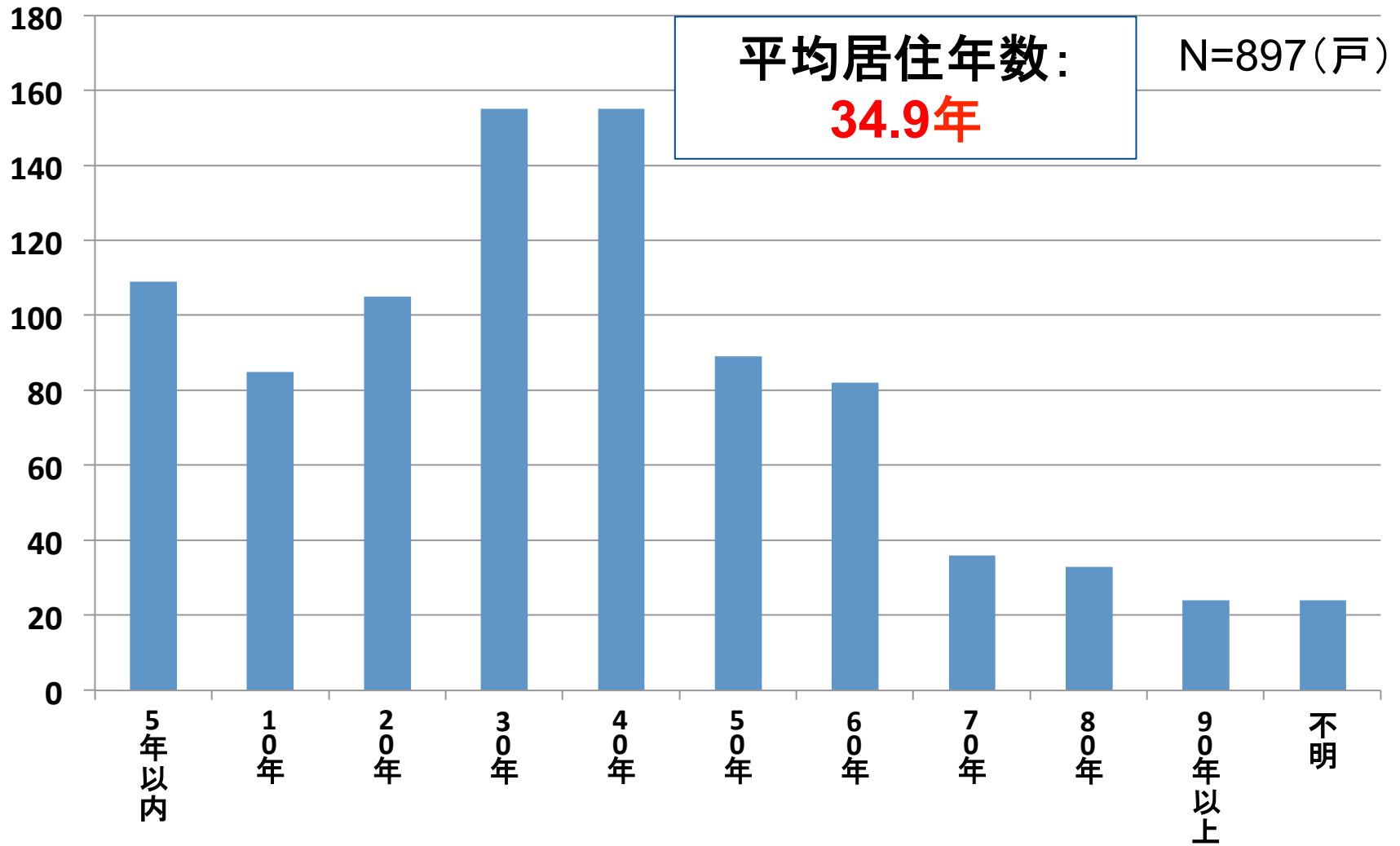


# 全仮設入居者の性別・年齢

■ 男 ■ 女 ■ 不明



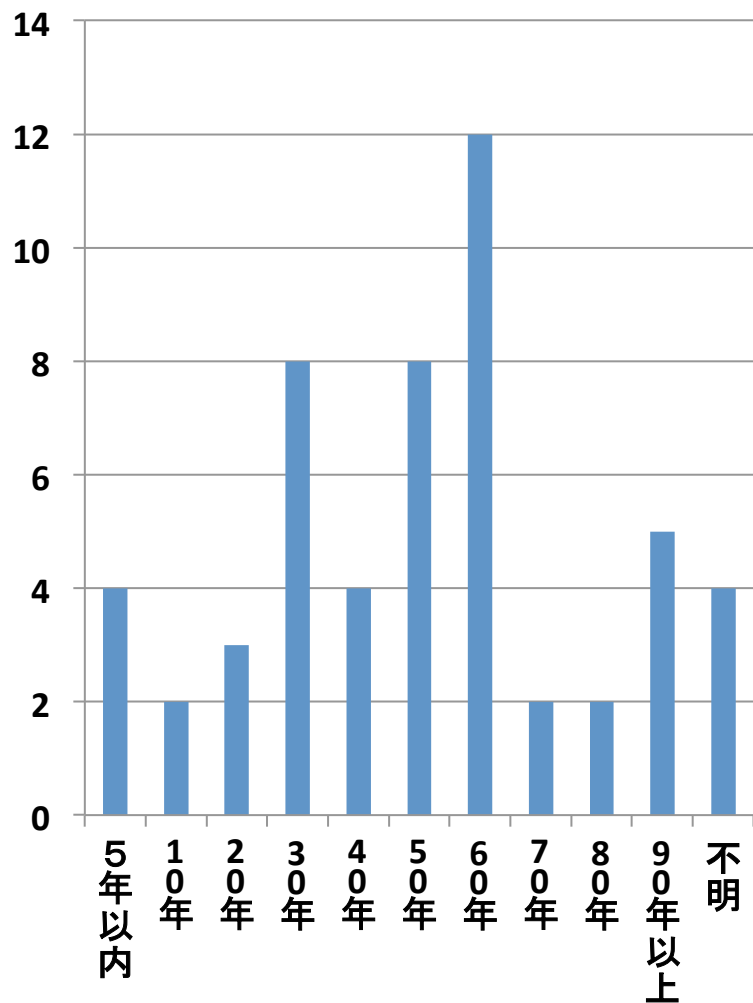
# 地震前の住宅の居住年数(全団地)



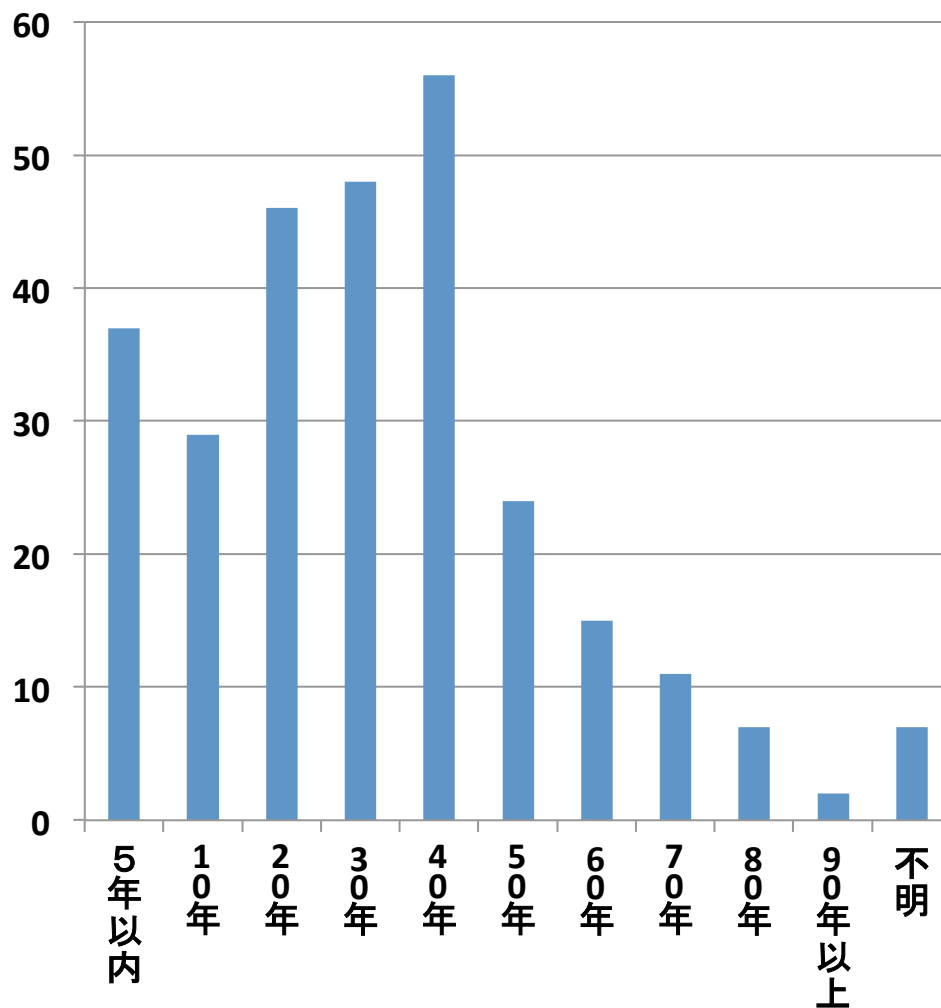


# 地震前の住宅の居住年数(小学校区別)

## 益城中央小(福田)

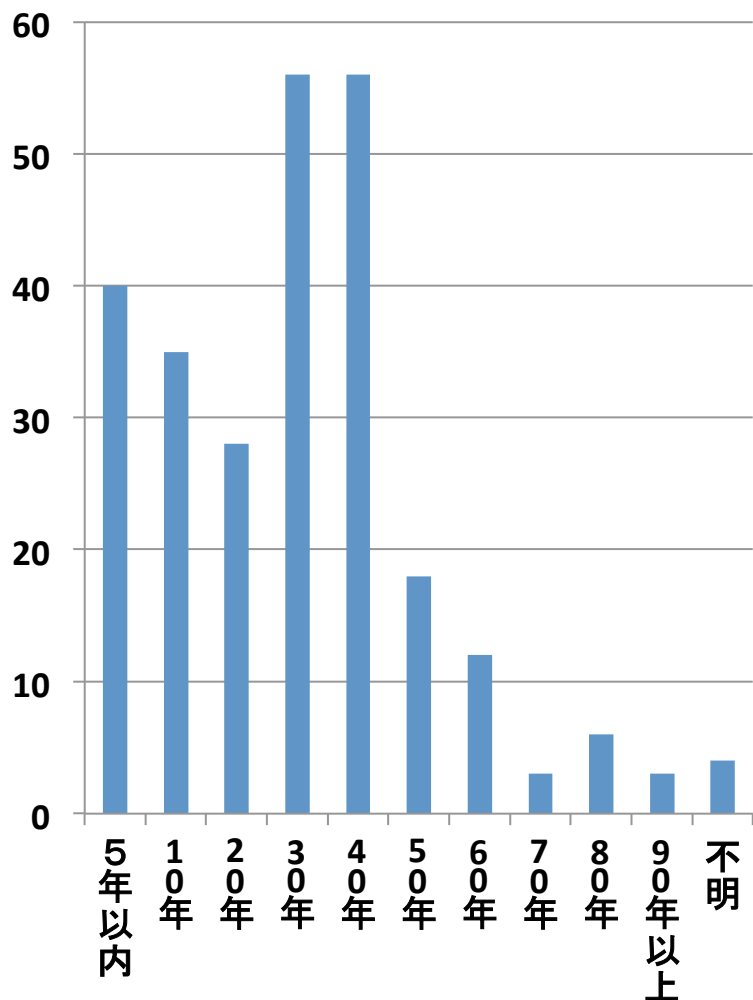


## 益城中央小(木山)

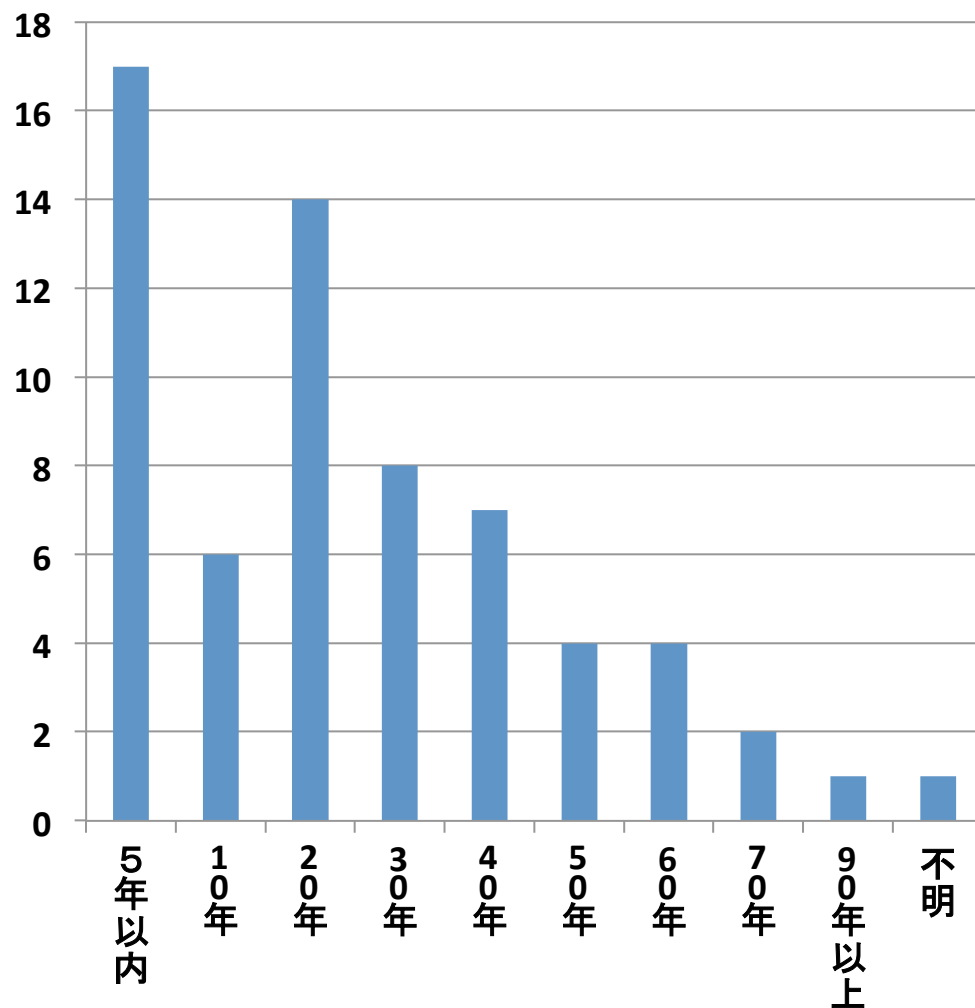


# 地震前の住宅の居住年数(小学校区別)

## 広安小学校

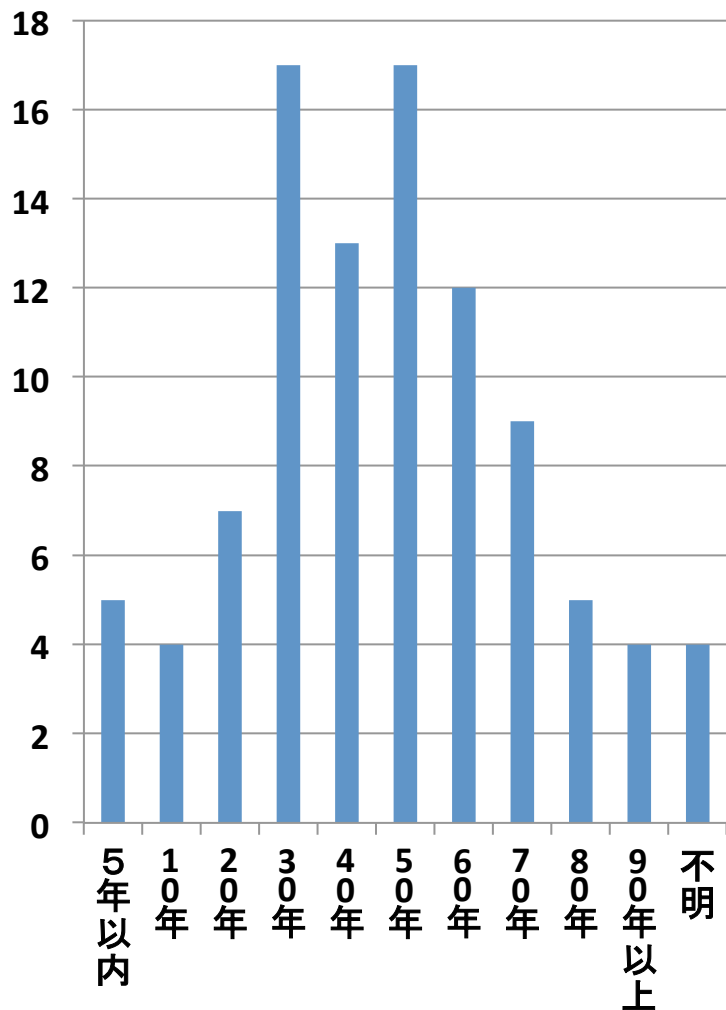


## 広安西小学校

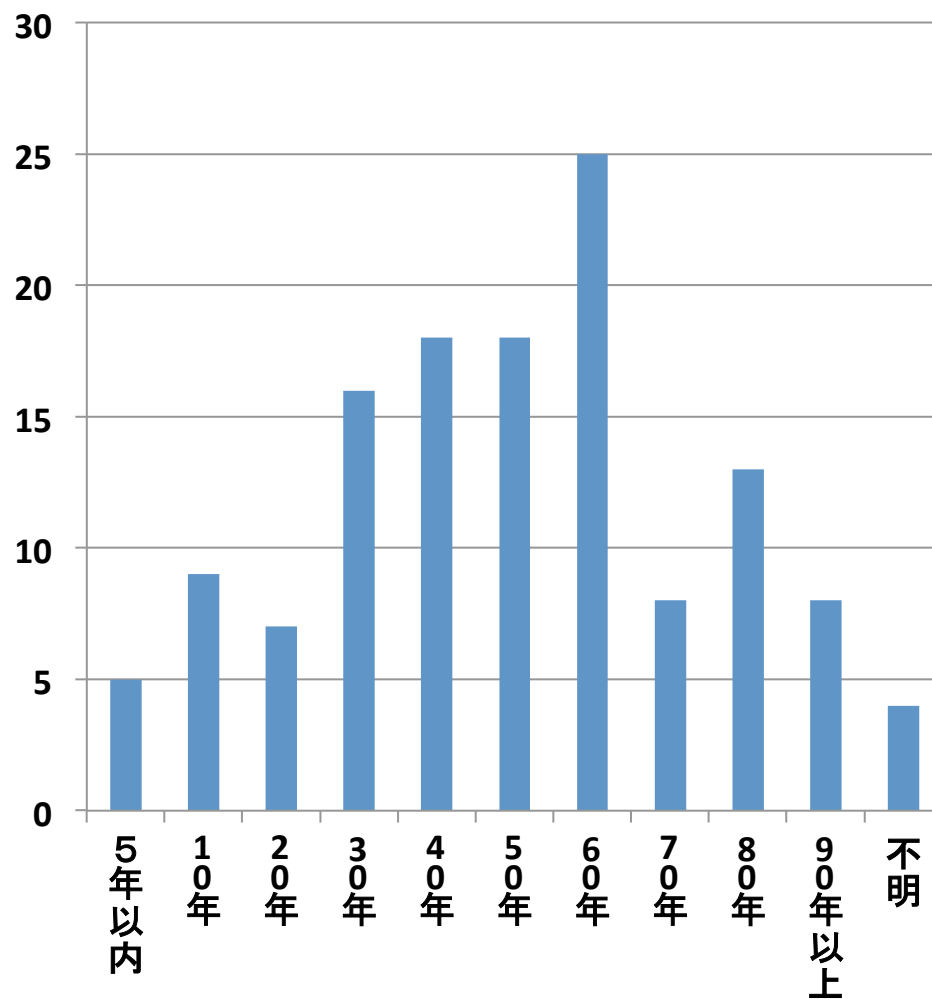


# 地震前の住宅の居住年数(小学校区別)

## 津森小学校



## 飯野小学校



## 熊大は益城町の復興を長期に支援します!!

熊本大学でまちづくり・防災・都市計画などを学ぶ学生とその教員は、5月から益城町の復旧・復興活動を継続的に支援してきました。この復興応援便り(ニュースレター)は、その活動の一部を定期的に紹介します。



避難所の環境改善に取り組む熊大生  
5月18日 益城町総合体育館

## 熊大生が仮設住宅でお話を伺っています

6月30日から益城町と熊本大学の共同で仮設住宅(赤井・広崎・津森)での聞き取りを行っています。内容は、仮設での暮らしで不便なこと、今後の住まいへのお考えなどです。他の仮設住宅にも今後順次お伺いしますのでよろしくお願ひします。



## 聞き取りの結果速報 6月30日(木)から7月9日(土)実施分まで

お話を伺った戸数：赤井 16戸、広崎15戸、津森25戸 合計 58戸  
皆様の声の一部を紹介します。結果の詳細は順次お知らせします。

- いつまで仮設にいられるか不安
- 早くかれぎ撤去や解体をして欲しい
- 近所付き合いもあるので元の家に帰りたい
- インターネットがないと役場からの情報がすぐには分からない
- 益城町中心部の被害だけが注目されがちだが、杉堂などの周辺部も被害は大変で忘れてほしくない
- ボランティアさんの活動がありがたかった
- 仮設に入れただけでありがたい
- 周りに買物できる場所が少ない
- 役場の人が一番大変だが丁寧に対応してくれた
- 今回、話をすることがストレス発散になった

## 報告 仮設住宅でベンチを製作・贈呈しました



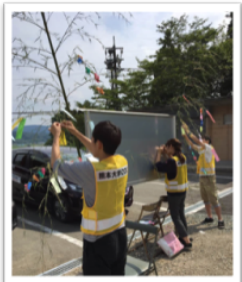
6月15日と20日に仮設住宅(広崎・赤井)で、熊本大学工学部の学生がベンチを製作しました。共用スペースに設置しております。ささやかな試みですが、憩いの場として、井戸端会議や語らいなど、みなさまにご利用いただければ幸いです。

## お知らせ 仮設での暮らしと今後についてお話を伺います

益城町と熊本大学の共同で、仮設住宅の住民のみなさまへの聞き取りを実施いたします。入居説明会で説明いたしましたように、目的は右記のとおりです。熊本大学の学生がお話を伺います。ご協力をよろしくお願いいたします。

聞き取りの目的  
①必要な復興住宅の戸数・希望される場所を把握する  
②現在の不自由な点、ご不安なことを幅広く伺う

## 七夕の願いが届きますように!



広崎と津森の仮設団地での七夕飾りに熊大が協力しました(7月5-7日)。住民の皆様が短冊に書かれた願いがかなうようメンバー一同で支援を続けたいと思います。

仮設の皆さんが  
病気をしませんように  
元気で自然豊かな  
益城に戻りますように  
2年後には自宅に戻り落ち着いた  
生活がてきますように

## 仮設住宅での聞き取りを継続しています

益城町と熊本大学の共同での仮設住宅での聞き取りを6月末からつづけています。仮設での暮らしで不便なこと、今後の住まいへのお考えなどを伺っています。大学生が2名一組で一軒一軒訪問しています。8月からは、他大学等からの応援もいただきながら、全戸訪問の予定です。ご協力よろしくお願いします。今後、復興計画策定委員会等へ聞き取り結果の中間報告をしていきます。



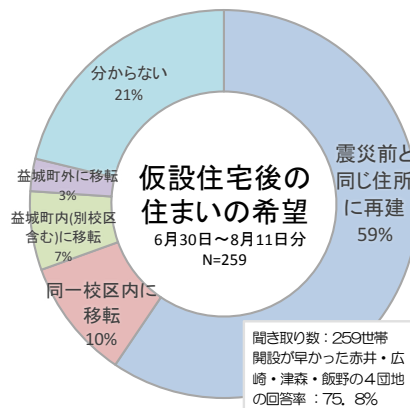
## 学生ボランティア団体「熊助組」を紹介します



「熊助組」は、熊大生の学生災害復旧支援団体です。2007年6月に結成し、今年で9年目を迎えます。メンバー総勢50名を超え、熊本地震においても支援活動を県内各地で行っています。今回の災害支援への累計活動人数は280名を超えています。

## 仮設住宅聞き取りの途中経過を報告します

熊大生が仮設住宅での聞き取りを続けています。仮設での暮らしで不自由なこと、今後の住まいへのお考えなどを伺っています。仮設住宅の環境改善の要望は役場へ伝えていきます。また、復興住宅の計画などに皆様のご意見が反映される予定です。熊本学園大学など県内外の大学の応援もいただきながら、ボランティアでの聞き取りを続け、今後全戸訪問予定です。ご協力をよろしくお願い致します。



- ・自宅再建が理想だが経済面で厳しいので復興住宅ができればそこに住むのも良い
- ・もともと住んでいた地区に復興住宅を建設してほしい
- ・自宅再建の予定だが平屋にする予定
- ・家族が一緒になって住める家屋を希望
- ・益城町は住み慣れている。愛着もある。
- ・再建できる地盤か分からないが、元の場所が良い
- ・子供の校区を変えたくない
- ・お金が無いから先のことは考えられない
- ・車を運転できなくなるかもしれないからバス停の近く

## にゅうめんの炊き出しをしました！

7/17(日)に「熊助組」と香川大学が協力して、益城町内の避難所で「釜揚げそうめん風になゅうめん」の炊き出しを行いました。梅雨明けも間近の暑さの中でしたが、アツアツのにゅうめんは避難者や近所の方々にたいへん好評でした。



## 住民意見交換会の運営支援をしています

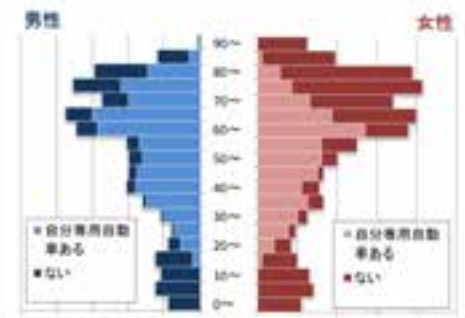
7月28日から連日開催されている益城町復興計画策定に向けた住民意見交換会の運営をボランティアでお手伝いしています。住民の皆様からの様々な意見・要望に対して町長・町職員の方が毎回丁寧に回答されています。

休みなく働き続けている役場の方々の負担が少なく、また一日でも早い益城町復興が実現できるよう我々も微力ながらお手伝いを続けたいと思います。



## 仮設住宅聞き取りへのご協力ありがとうございます

熊大生による仮設住宅での聞き取りを6月末から継続しています。9月3日まで675世帯からお話を伺うことができました。お話しする時間はお忙しければ10分から15分ですが、1時間を超えて発災時からのご経験や地震前の生活などをお聞かせいただいたこともあります。益城町の復興計画にご意見を反映したいと思えます。また学生の学びの機会をいただいていることにも感謝いたします。



- ・せいじくは言えないが、仮設は狭い
- ・車を運転できないが家族(3人)に送迎してもらい病院や買い物へ行っている
- ・空想から着替える飛行機を撮影するのが趣味になった(テクノ団地居住者)
- ・近所の方が近くの仮設に住んでいてよかった
- ・ポスト、ATM、街灯、ミラー、出張所等が欲しい
- ・お集まった家に埋まっている仏壇を早く拜みたい
- ・高齢者だけでなく妻と母親世代のことも考えて熊本高森線は四車線化するべき
- ・孫の世代に向けて地震に強いまちにしたい
- ・ラジヲ体験をしたい
- ・明るく楽しく仮設住宅での2年間を過ごしたい
- ・若者があられるまちづくりを!

仮設住宅居住者の人口ピラミッド

6月30日～8月31日分(聞き取り対象世帯人数総数1487人)

## 県内外の大学とも一緒に活動しています

仮設住宅の聞き取りは、熊本大学のほか、熊本学園大、熊本県立大、青山学院大、九州大、九州工業大、佐賀大、大分大、京都大、東京大、自治医大、関西学院大、慶應義塾大(順不同)など数多くの大学生の有志の方々と協力して実施しています。なかでも青山学院大ボランティアステーション(熊本Pリーダー:松村悠太郎さん)には、10日間にわたり聞き取りやデータ入力などをご協力いただきました。青山学院大のメンバーは、東北の被災地等での支援の活動経験も豊富で、熊本大のメンバーはこれからの活動展開に向けて彼らから多くのことを学びました。益城町の復興に向けて地元の大学生にしかできないことを長期的に続けたいと思えます。



熊本大学 熊本大学復興支援プロジェクト  
発行担当: 熊本大学政策創造研究開発センター 内山  
電話: 096-342-2044(代) kakunaru@熊本.ac.jp

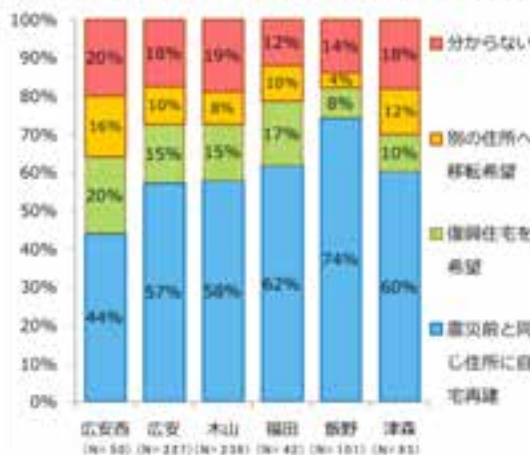
## 「ましきラボ」が10月14日オープンします!

秋津川河川公園に熊本大学の復興まちづくり支援の拠点施設を建設中です。学生・教員と住民の皆様が益城町の将来の姿をじっくりお話しする場として、また学生ボランティアの拠点等としても活用予定です。ぜひ気軽にお越しください。



## 仮設での聞き取りの途中経過を報告します!

熊大生が仮設住宅での聞き取りを続けています。仮設暮らしのお困りごと、今後の住まいのお考えなどを伺っています。復興住宅(災害公営住宅)の計画などにご意見が反映される予定です。9月27日までに897世帯のお話を伺っています。たいへん多くの方からのご協力で深く感謝いたします。



校区別 仮設後の住まいの希望 (6月30日～9月30日分)

- ・早く復興住宅を建設してほしい
- ・自宅再建が復興住宅かで気持ちがゆれている
- ・避難所で一緒だった人たちが家に遊びに来てくれてとても嬉しい
- ・趣味の太極拳ができる日を楽しみにしている
- ・自分で工夫して暮らしていかないといけないと思っている
- ・地震直後はたくさんのボランティアが来てくれたけど今もほしい
- ・子どもが安心して遊べる場所
- ・飛行機が飛び立つのを見て、元気に、前向きになれる(テクノ団地)
- ・町長、町会議員さんたちも一丸となって頑張っていて嬉しい
- ・役場の人はずごく頑張ってくれていて感謝している
- ・自分達でできることは自分達でしたい

熊本大学 熊本大学復興支援プロジェクト  
発行担当: 熊本大学政策創造研究開発センター 内山  
電話: 096-342-2044(代) kakunaru@熊本.ac.jp



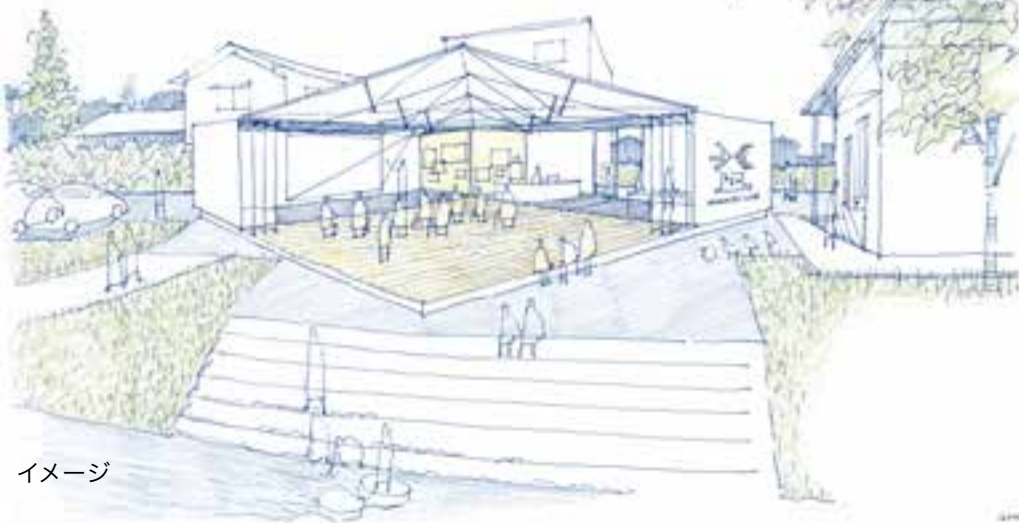
熊本大学星野研究室製作



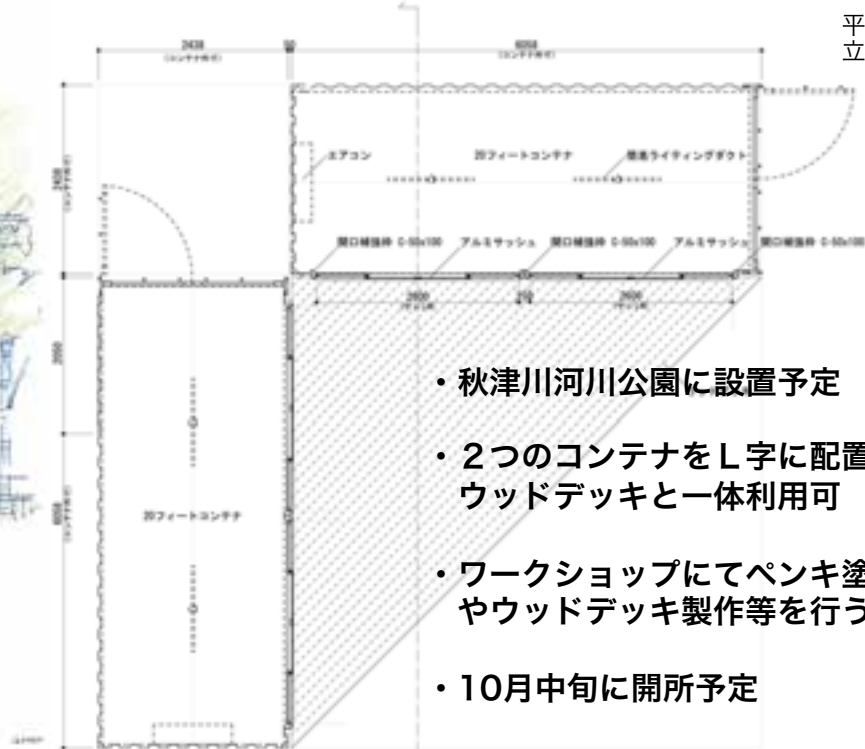


# ましきラボ

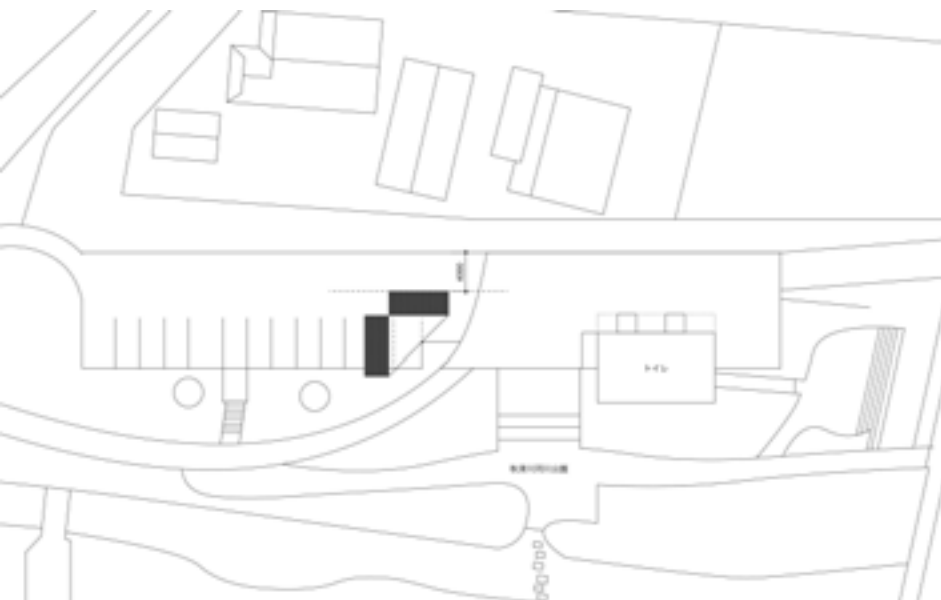
まちからアクセスしやすい秋津川河川公園に  
まちづくり拠点としてのラボを開設します。



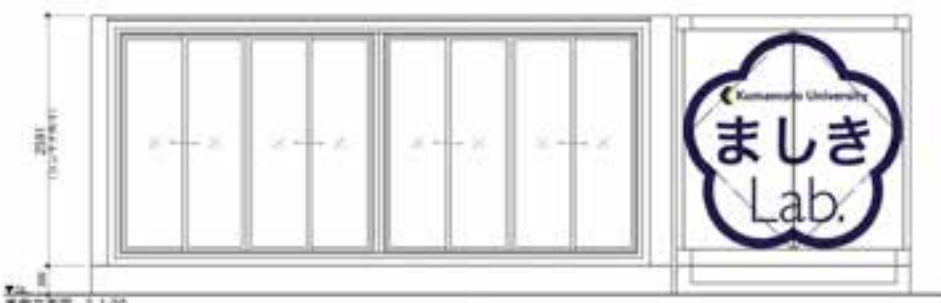
イメージ



- ・ 秋津川河川公園に設置予定
- ・ 2つのコンテナをL字に配置し  
ウッドデッキと一体利用可
- ・ ワークショップにてペンキ塗装  
やウッドデッキ製作等を行う
- ・ 10月中旬に開所予定



配置図



立面図 1/30

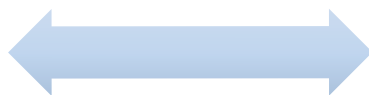


設置予定地

設計 熊本大学建築学科 田中智之准教授

行政

被災者



復興計画に必要な  
情報入手

若者との会話の機会  
仮設住宅の環境改善

地元大学

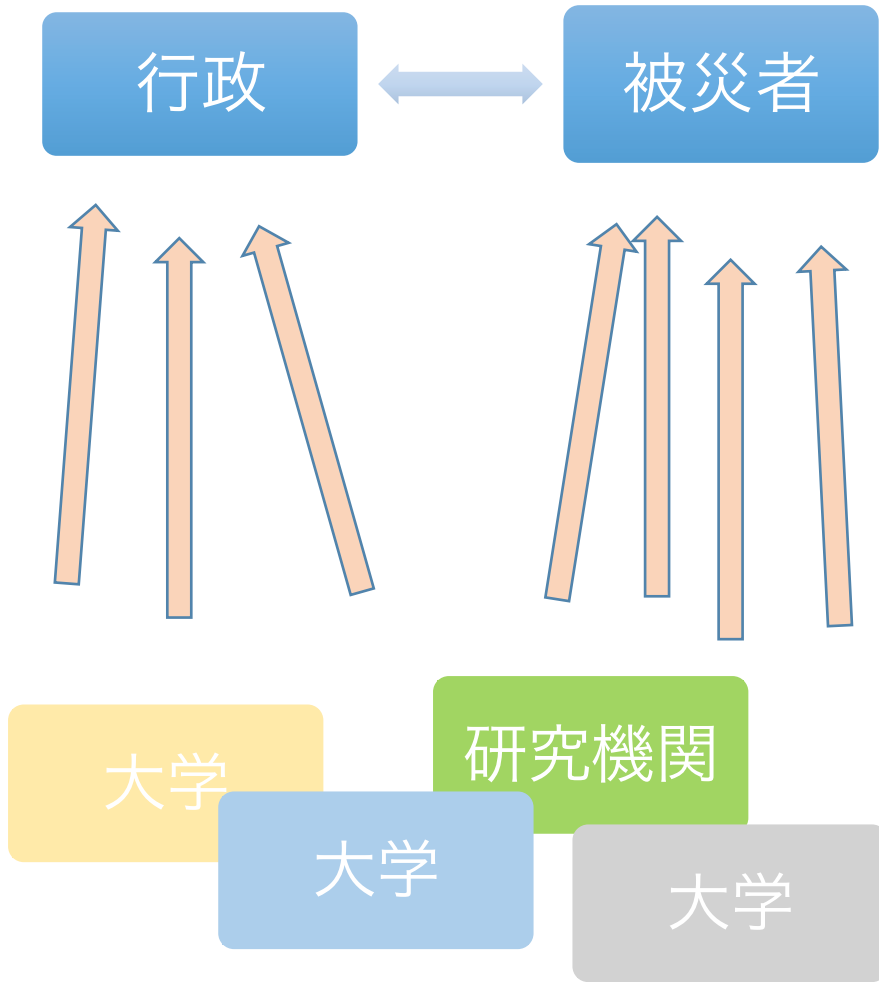
現場での学び

# 県内外の大学との連携

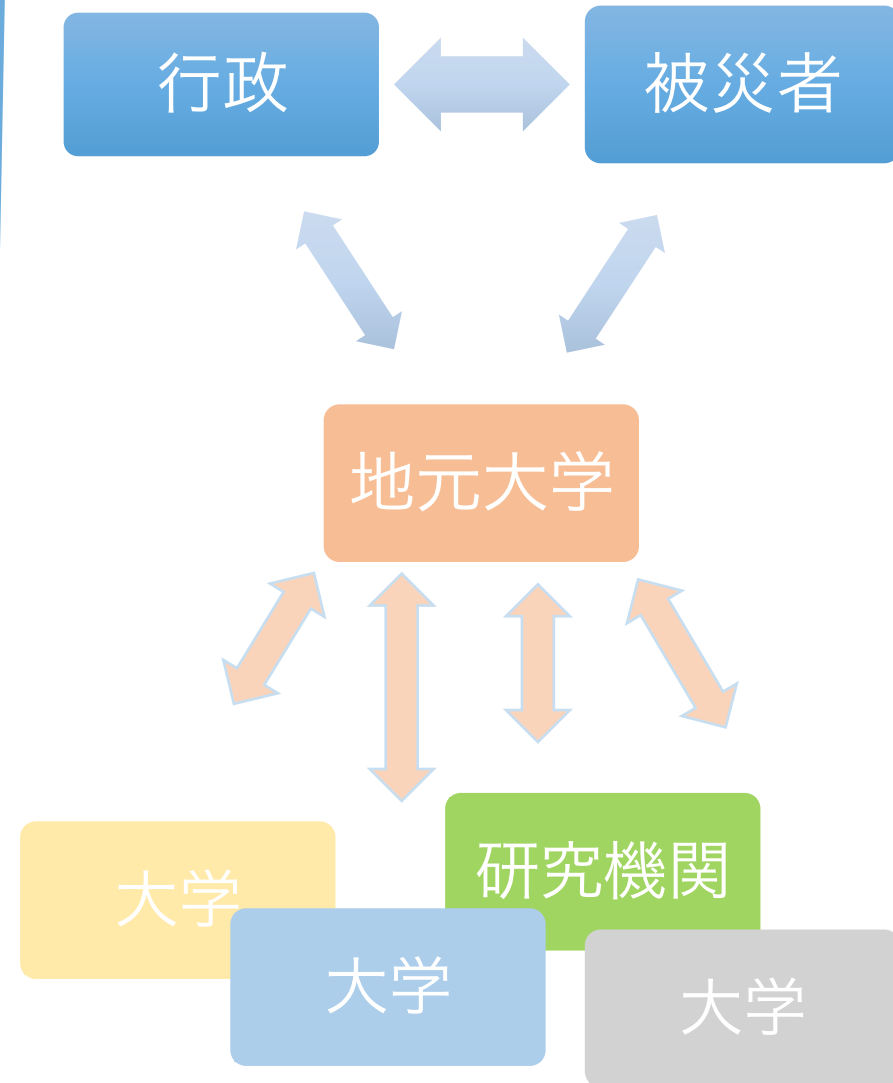
- 熊本学園大学, 熊本県立大学
- 九州大学、佐賀大学、九州工業大学, 大分大学
- 青山学院大学, 関西学院大学, 自治医大, 慶應義塾大学, 東京大学, 京都大学
- 学生有志の皆さん



## 被災地の姿



## めざす状態(1) 益城町仮設聞き取り第1弾



## めざす状態（2） 益城町仮設聞き取り第2弾以降

